

平成27年度
北海道博物館事業実績報告書
(事業実績に関する内部評価)

平成28年3月
北海道博物館

目 次

はじめに	1
事業実績に関する評価にあたっての基本的な考え方	2
I. 北海道博物館の概要	3
(1) 設置目的	3
(2) 事業内容	3
(3) 組織	3
(4) 沿革	3
(5) 職員状況	4
(6) 北海道博物館基本的運営方針	4
(7) 中期目標・計画	6
(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針	6
II. 総括評価	7
(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置	9
(2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	9
(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	10
(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	11
(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	12
(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	13
(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置	14
(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多分化共生社会の実現に向けた措置	15
(9) 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	16
III. 項目別評価　―第1期中期目標・計画―	
―アイヌ民族文化研究センター事業推進方針―	17

はじめに

本報告書は、北海道博物館の平成27年度事業実績に関する内部評価報告書である。

ここで言う「北海道博物館」とは、北海道立総合博物館条例の第3条で規定する三つの施設、(1)北海道博物館(以下「博物館」という。)、(2)北海道開拓の村(以下「開拓の村」という。)、(3)野幌森林公園自然ふれあい交流館(以下「ふれあい交流館」という。)のうち、(1)のことを指す。また、博物館が実施した事業実績に関する内部評価は、博物館が策定した「北海道博物館基本的運営方針」に基づく「中期目標・計画」及び「年度計画」を対象とし、平成27年4月から平成28年1月末までの実績で実施した。

博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」の管理運営については、指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は、知事が定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握、公表することで行っているため、北海道博物館が行う内部評価の対象外とした。

事業実績に関する内部評価にあたっての基本的な考え方

博物館は、「基本計画」の第2章6項（4）「博物館運営の評価」の趣旨に基づき、平成27年度の事業実績に関する内部評価を実施した。

なお、博物館は博物館法で定める「登録博物館」、「公立博物館」に該当する施設ではないが、内部評価を実施するに当たっては、「博物館法」第9条ならびに「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第165号）の第4条1項の規程を参考にして実施した。

博物館が具体的に内部評価を行うに当たっては、当館が策定した「北海道博物館内部評価実施要領」により次のように実施した。

○目 的

- ・博物館が策定した基本的運営方針の達成状況等を自ら点検し、改善を図ること。
- ・評価を通じて、博物館の課題・成果を館外で共有してアカウンタビリティ（責任説明）を明確にして、博物館の運営状況をわかりやすく道民に示すこと。

○評価の実施

博物館は、第1期中期目標・計画期間（平成27年度～平成31年度）における平成27年度（平成27年4月から平成28年1月末まで）の事業実績に関して、次の内部評価を行った。

ア. 項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループの主幹、学芸主幹、研究主幹が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行った。

イ. 総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により評価を行った。

○項目別評価・総括評価の基準

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 （右欄の項目以外の項目）	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 （S、A の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 （B、C の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
C 実施していない	取組が行われていないとき	

I. 北海道博物館の概要

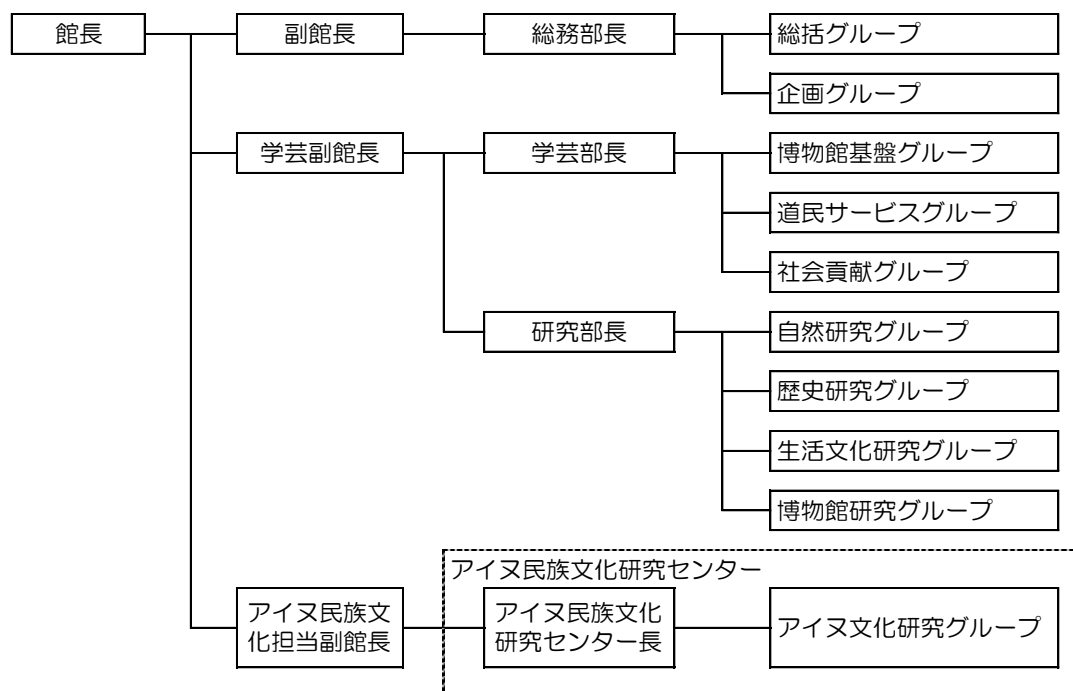
(1) 設置目的

北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与する。

(2) 事業内容

- ア 北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- イ 収集し、保管し、又は展示する資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- ウ 資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。
- エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。
- オ 北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
- カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。
- キ 資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
- ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。

(3) 組織



(4) 沿革

1971（昭和 46）年に設置された北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の一つとして

開設された歴史系博物館である。開館以来、北海道開拓のなかで産み出された文化財を中心にさまざまな歴史資料を収集保存、調査研究し、それらを体系的に整えるとともに、常設展示を核とする展示活動や教育普及の諸事業を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきた。

1994（平成6）年に設置された道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ民族文化に関する調査研究を行い、その成果の普及等を図り、もってアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的として設置された。アイヌ民族文化の中でも継承が急務とされた、言語・口承文芸、芸能、伝統的生活技術等の無形の伝承文化を中心とした調査研究を行うと共に、その理解に欠かさない歴史についての調査研究を行い、その成果の普及に努めてきた。

2008（平成20）年6月に国会で「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされた。そうしたアイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心の高まりに伴い、両施設はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実が求められることとなった。また、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、北海道は平成20年に北海道文化審議会に対して「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、その答申を受けて平成22年9月に「北海道博物館基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。「基本計画」は「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することなどが「基本計画」の中に定められた。そして、平成27年4月1日に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターの2つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。また開館に先立って、愛称を「森のちゃれんが」（道民公募）とし、新しいロゴマーク（民間企業等からの公募）を作成した。

（5）職員状況（平成28年3月現在）

（人）

区 分	特 別 職	局室長級	課 長 級	主 幹 級	主 査 級	一 般 職	計
行 政 職		1	1	(1)	3	2	7 (1)
研 究 職			2	4 (1)	8	15	29 (1)
非 常 勤	4					14	18
計	4	1	3	4 (2)	11	31	54 (2)

※括弧は兼務

（6）北海道博物館基本的運営方針

ア 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けま

す。

- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

イ 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

ウ 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、

教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

(7) 中期目標・計画

第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）については、基本的運営方針に基づき、次の3つの柱を重点項目として進める。

- ① 総合博物館かつ中核的博物館としての基本的な機能の充実や社会貢献など、信頼の確保に向けた取組を進める。
- ② 総合展示の入替えやイベントの充実など、来館者が繰り返し訪れるための魅力ある取組を進める。
- ③ 道民の興味を喚起させる展示、イベント、広報の充実など、これまで博物館を利用しなかった道民が北海道博物館を訪れるための誘導力のある取組を進める。

(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針

第1期中期目標・計画と整合を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」については、(7)の3つの柱を重点項目として進める。

〔経緯〕 第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）のアイヌ文化関連の項目は、平成25年度にアイヌ民族文化研究センター運営協議会の決定を以て策定された「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成25～30年度）」を継承しながら策定された。統合後の平成27年11月には北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会が開催され、展示、教育普及等について第1期中期目標・計画との整合性を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」が了承された。

Ⅱ．総括評価

【北海道博物館基本的運営方針】基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。

総括評価 1 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置

総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。

評価	A：十分に実施している
----	-------------

総括評価 2 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

評価	B：十分に実施していない
----	--------------

【総評】 中期目標・計画No.1、2、3、4

①評価すべき取組

- 文化財保護法に基づく公開承認施設の承認
- 総合展示室利用者数の目標値を大幅に更新（目標値72,400人／利用者数142,554人）
- 特別展示室利用者数の目標値を大幅に更新（目標値57,600人／利用者数100,487人）
- クローズアップ展示等の計画的な展示替えの実施
- 海外機関との共同研究事業の実施（ロシア・サハリン州及びカナダ・アルバータ州との調印締結）

②改善・注視を要する取組

- 資料収集・保存業務における関係グループ間の連携（計画的な受入体制の確立など改善が必要）
- IPMの重要性等に係る館員への周知（質の高い保存環境の維持活動を展開する観点から改善が必要）
- 総合展示室の外国人利用者数（目標値3,800人／利用者数2,770人）

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

- 総括評価項目1は、項目別評価は概ね妥当であり、A評価とする。
- 総括評価項目2は、開館初年度としての事業展開に重点を置いたため、十分に実施したとは言えず、B評価とする。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	A	北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録	基盤G
2	A	公開承認施設としての資料保存環境の整備	基盤G
3	A	総合展示の維持管理と資料の入替え	基盤G
4	A	総合博物館として様々な企画展を計画・実施	基盤G
5	A	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	基盤G
6	A	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	基盤G
7	B	旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定	企画G

【北海道博物館基本的運営方針】基本方針

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

総括評価 3 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

評価 A：十分に実施している

【総評】 中期目標・計画No.5、6、8～10

①評価すべき取組

- イベント参加者数の目標値を大幅に更新（目標値3,200人／利用者数7,135人）
- 多言語対応音声解説サービスの開発（来年度に運用開始予定）
- バス事業者への働きかけによりバス停の移設を実現し利便性が大幅に向上
- ホームページアクセス数目標値を大幅に更新（目標値79,000件／アクセス数234,132件）

②改善・注視を要する取組

- はっけん広場及び子ども向け教材の開発（利用者ニーズを踏まえ利便性を高める改善が必要）
- 利用者の視点に立った効果的な施設活用（利用基準等の検討が必要）
- 愛称、ロゴマークの周知（道民への浸透を図る取組が必要）
- 赤れんがサテライトの情報発信（展示内容や運用面の改善が必要）
- ミュージアムエデュケーターに関する取組（方針の明確化と、より積極的な取組が必要）

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

- 項目別評価は概ね妥当であり、A評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
8	A	子ども向けの魅力あるイベントの充実	道民G
9	A	子ども向けの教材の開発	道民G
10	A	はっけんプログラムの運用	道民G
11	B	ミュージアムエデュケーターに関する取組	社貢G
12	B	アメニティ設備の設置。オリジナルグッズの販売。設備の活用	総括G
13	A	バス停の移設	総括G
14	A	野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	総括G
15	A	広報活動の強化	道民G
16	B	赤れんが庁舎の活用	道民G
17	A	利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し	企画G

総括評価 4 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

評価	A：十分に実施している
----	-------------

【 総 評 】 中期目標・計画No.7、10

①評価すべき取組

○北海道立総合博物館協議会を設置し、評価制度を導入

②改善・注視を要する取組

○評価制度の円滑な運用

○道民参加型組織の創設に向けた取組（具体化に向けた実施計画の策定等が必要）

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

○項目別評価は概ね妥当であり、A評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
17	A	利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し	企画G
18	A	道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の打出し	企画G

【北海道博物館基本的運営方針】基本方針

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

総括評価 5 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

評価	B：十分に実施していない
----	--------------

【総評】 中期目標・計画No.1 1

①評価すべき取組

○道内外の各種博物館との連携の実施（目標値40件／連携等38件）

②改善・注視を要する取組

○博物館交流の積極的な事業展開に向けた計画的な取組（連携や協力のあり方等の検討が必要）

○出前講座・出前博物館の取組（課題の明確化と計画的な取組が必要）

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

○各種博物館との連携は概ね目標数に達成していることから、項目別評価ではA評価としているが、中核的博物館としての計画的な連携や交流の取組を十分に実施していない点を勘案し、総括評価ではB評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
19	A	連携及び交流の方針・計画案の作成	社貢G

総括評価6 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

評価	B：十分に実施していない
----	--------------

【 総 評 】 中期目標・計画No.12

- ①評価すべき取組
 - ツイッターの開始
 - 図書室の利便性（図書室利用の手続きの改善など）
- ②改善・注視を要する取組
 - ICT機能の整備（全館的視点に立った計画的な実施が必要）
 - 図書室の基礎的機能（課題整理と計画的実施が必要）
 - レファレンス機能（体制整備が必要）
- ③総体的な評価（評価基準の判断根拠）
 - 項目別評価は概ね妥当であり、B評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
20	B	図書室の活用のための中長期プランの作成	社貢G

【北海道博物館基本的運営方針】基本方針

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

総括評価 7 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

評価	B：十分に実施していない
----	--------------

【総評】中期目標・計画No.13、14

①評価すべき取組

○博物館刊行物の発行体制の整備と研究紀要の刊行

②改善・注視を要する取組

- 博物館実習生の受入（フォローアップの充実が必要）
- 外来研究員(室)に係る課題（受入体制等の整備が必要）
- 学術刊行物に係る課題（刊行物の質を高める取組等が必要）

③総合的な評価（評価基準の判断根拠）

○項目別評価では、社会貢献の目標値を大きく上回った実績等を捉え、SおよびA評価としているが、改善を要する案件も多くあることを勘案し、総括評価としてはB評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
21	A	研修・実習プログラムの開発	社貢G
22	S	職員の対外貢献の促進	社貢G
23	A	道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り	企画G

総括評価 8 アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

評価	A：十分に実施している
----	-------------

【 総 評 】 アイヌ民族文化研究センター事業推進方針No.1、2、3、4、5

①評価すべき取組

- 総合展示室における展示内容及び定期的な入替えの実施（多くの外部視察で好評価）
- 資料の計画的な整備（未整理資料の解消に向けた計画的な対応）

②改善・注視を要する取組

- 研究資料（公開資料）の作成（全体的な計画に比べてやや遅延しており注視を要する）
- 資料閲覧（音声、映像、文書）の利用件数の記録方法（把握方法の構築が必要）

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

○項目別評価では、改善を要する案件等を考慮してB評価としているが、開館後の博物館活動の中でアイヌ文化を大きく発信した実績と、次年度以降に計画的な事業展開を予定している点などを勘案し、総括評価としてはA評価とする

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	B	総合展示の定期的な入替え	アイヌ研
2	B	企画展または巡回展の実施	アイヌ研
3	B	研究プロジェクトの実施	アイヌ研
4	B	資料・情報の収集と整備	アイヌ研
5	B	公開資料の充実	アイヌ研
6	B	発信媒体強化に向けた方向性の打出し	アイヌ研
7	B	統合後の支援態勢の整備	アイヌ研
8	A	アイヌ文化関連のイベントの実施と改良	アイヌ研
9	A	積極的な発信と協働の推進	アイヌ研

外部評価項目
ガバナンス体制の育成

総括評価 9 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

評価	A：十分に実施している
----	-------------

【 総 評 】 該当計画なし

①評価すべき取組

- 運営会議を通じた館内の意思決定の迅速化及び情報の共有体制の強化
- 本庁との連携体制の強化

②改善・注視を要する取組

- 各グループ業務の運営と全館的な周知体制の強化
- 本庁各部局との連携のより一層の強化

③総体的な評価（評価基準の判断根拠）

項目別評価は、A評価1項目、B評価2項目としているが、館内のガバナンス体制の強化が進んでいること、本庁との連携が強化されている点は、十分に実施していると評価できるため、A評価が妥当である。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
24	B	各部のグループ業務に関する課題の共有と解決	総括G
10	B	館における研究センターの運営	アイヌ研
25	A	課題の共有と解決	文・スポ課

Ⅲ. 項目別評価

—第 1 期中期目標・計画—

総括評価・項目別評価 項目一覧

【総括評価項目】

- (1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置
- (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

- No.1 北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録
- No.2 公開承認施設としての資料保存環境の整備
- No.3 総合展示の維持管理と資料の入替え
- No.4 総合博物館として様々な企画展を計画・実施
- No.5 総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施
- No.6 科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得
- No.7 旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定

【総括評価項目】

- (3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

- No.8 子ども向けの魅力あるイベントの充実
- No.9 子ども向けの教材の開発
- No.10 はっけんプログラムの運用
- No.11 ミュージアムエデュケーターに関する取組
- No.12 アメニティ設備の設置。オリジナルグッズの販売。設備の活用
- No.13 バス停の移設
- No.14 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上
- No.15 広報活動の強化
- No.16 赤れんが庁舎の活用
- No.17 利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し

【総括評価項目】

- (4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

- No.17 利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し
- No.18 道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の打出し

【総括評価項目】

- (5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

- No.19 連携及び交流の方針・計画案の作成

【総括評価項目】

(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.20 図書室の活用のための中長期プランの作成

【総括評価項目】

(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.21 研修・実習プログラムの開発

No.22 職員の対外貢献の促進

No.23 道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り

【総括評価項目】

(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.1 総合展示の定期的な入替え

No.2 企画展または巡回展の実施

No.3 研究プロジェクトの実施

No.4 資料・情報の収集と整備

No.5 公開資料の充実

No.6 発信媒体強化に向けた方向性の打出し

No.7 統合後の支援態勢の整備

No.8 アイヌ文化関連のイベントの実施と改良

No.9 積極的な発信と協働の推進

【総括評価項目】

(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.24 各部のグループ業務に関する課題の共有と解決

No.10 館における研究センターの運営

No.25 課題の共有と解決

中期目標・計画番号	1-1	目標値番号	1	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目					
1 資料の収集・保存					
(1) 資料の収集					
			プライオリティ		
			H27	H28	H29
				○	
					H30
					H31

点検項目集計	計	○	×
	7	5	2

中期目標・計画 ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。 イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。 ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。
--

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
・資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録する。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。	1	・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録 【判断数値】 ・資料審査会の実施回数 ・受入資料件数	資料の収集については、館内の資料審査会（会長は館長）を開催し、各研究グループから提出された資料情報について、館の資料収集方針等に基づきその重要性等を検討し受入れの可否を審査した。審査で受入れ方針が決定した資料は、受払決定書で受入れして資料番号をつけ、台帳登録・データベース登録・保存処理・注記・撮影・配架作業となる。	・資料を分類・整理する分野の再検討など、来年度の課題が残されているが、旧開拓記念館資料と旧アイヌ民族文化研究センター資料の管理移転を実施できた。 ・資料審査会から受払決定への流れができた。 ・資料審査会を4回実施し、貴重な資料を受け入れることができた。	A	・資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録する。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 ・貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。 ・資料を分類し、整理するための分野を再検討すると共に、新館受入資料の収蔵番号の注記作業を進める。	・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録 【判断数値】 ・資料審査会の実施回数 ・受入資料件数	
			以下、H28年1月末日現在の処理状況である。 ・H28年1月末日現在、情報処理件数57件中、審査会で受入れ決定13件、審査会待ち5件、収集しない25件、体験用・図書で受入れ3件、検討中11件である。 ・資料審査会はH28年1月末現在、4回開催して16件561点の受入れと発表・返却215点の方針を決めた。 ・旧開拓記念館および旧アイヌ民族文化研究センターの資料について、北海道博物館資料へ管理移転を実施した。そのため初年度の資料の受入払出件数は7回で180,606件登録した。ただし、資料を分類し、整理するための分野の再検討や資料の注記など、今後の課題も残されている。					
			目標（値）の実績 資料審査会の実施回数 受入資料点数					
			4	回				
			561	点				

中期目標・計画番号		1-2～4		目標値番号		2		担当		学芸部博物館基盤グループ	
第1期中期目標・計画項目											
1 資料の収集・保存											
(2) 収蔵機能の強化 (3) 資料保存環境の維持 (4) 収蔵資料の利用への対応											

プライオリティ											
H27		H28		H29		H30		H31			
○											

点検項目集計		計	○	×
(2)		6	5	1
(3)		5	4	1
(4)		3	3	0

中期目標・計画 (2) 収蔵機能の強化 ア 収蔵資料データベースの適正な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。 イ 東日本大震災時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。 ウ 市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。 (3) 資料保存環境の維持 貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 (4) 収蔵資料の利用への対応 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人がびとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。											
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

H27年度		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況
・収蔵資料データベースのシステム更新を実施し、旧開拓記念館及び旧アイヌ民族文化研究センターの情報システムを一元化する作業を進める。	2	・公開承認施設としての資料保存環境の整備	・旧開拓記念館資料と旧アイヌ民族文化研究センター資料を統合し、収蔵資料データベースの更新するための準備作業を実施した。
・災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。		・資料収蔵環境管理等に關する連絡会議の開催数	・文化財保護法に基づく公開承認施設としての保存環境維持に努めるため、IPM（温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策）を導入し、実施した主な作業は以下のとおりである（H28年11月末日現在）。
・収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。		・一元化後の資料登録件数	①捕虫トラップ…約100カ所×年10回の調査を実施
・温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。		・資料収蔵環境管理等に關する連絡会議の開催数	②収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査…1回実施
・収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。		・IPMに関わる作業の実施回数	③特別展示室と収蔵庫の空気菌調査…3回実施
			④基礎Gと保存担当者による収蔵庫清掃…8回実施
			⑤全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除…1回実施
			⑥新展示ケースなどのからし作業…恒常的に実施
			⑦収蔵庫搬入前の資料について二酸化炭素殺虫処理（殺虫ハック）…10回実施
			・IPMの運用にあたっては、各関係者間による収蔵環境の現状と問題点の検討を行う会議とその報告（共通認識）が重要であるという観点から以下の取組を行った。
			①IPMに関する研修への職員派遣（2回）
			（主催：九州国立博物館、9月9日～11日。主催：文化庁、11月6日）
			②館内研究会におけるIPM研修の成果報告（1回）
			③資料収蔵環境管理等連絡会議（主に温湿度データの確認と検討）の実施（8回）

目標（値）の実績	
一元化後の資料登録件数	180,606 件
資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数	8 件
IPMの実施回数	46 件

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目				
2 展示				
(1) 総合展示室の運営				
		プライオリティ		
		H27	H28	H29
		◎	○	○
			○	○
			○	○

点検項目集計	計		
	○	×	×
	21	18	3

中期目標・計画
 ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
 イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。
 ウ 総合展示のメンテナンスに努める。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
総合展示室利用者数	362,000人
うち外国人利用者数	19,000人

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）
・総合展示の定期的な入替えを実施する。 ・総合展示や施設の概要を紹介する日本語版及び英語版のガイドブックを作成する。 ・障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。 ・総合展示のメンテナンスに努める。	3	・総合展示の維持管理と資料の入替え	・総合展示の定期的な資料入替えを実施するためクロスアップ展示の展示替えを下記のとおり合計14回実施した。この展示替えにより、最新の研究成果を紹介し、新書資料・館蔵重要資料を公開するなど、飽きない楽しめる展示を提供することに努めた。また、展示コーナーAにおいて来年度のクロスアップ展示計画を決定した。 クロスアップ展示①（1テーマ）：3回 クロスアップ展示②（1テーマ）：6回 クロスアップ展示③（2テーマ）：1回 クロスアップ展示④（2テーマ）：1回 クロスアップ展示⑤（3テーマ）：1回 クロスアップ展示⑥（4テーマ）：2回 クロスアップ展示⑦（5テーマ）：1回 ・総合展示室1～5テーマの展示資料入替件数は34件である（クロスアップ展示以外）。その他、フロアーク展示で3件、職員紹介コーナー展示で4件の展示資料入替えを実施した。この展示替えにより、最新の研究成果の紹介、新書資料・館蔵重要資料の公開を促進した。 ・総合展示や施設の概要を紹介する日英併記ガイドブック（簡易版）を作成し、来館者が購入できるような体制を整備した。また、日本語版及び英語版のガイドブック（詳細版）を現在作成中であり、来年度には来館者が購入できるような体制を整備する計画である。 ・多言語に対応した解説サービスの開発、子供向けクイズワークシートの配布など、展示空間の整備が進んでいるところもあるが、障がいの者向けの「さわれる展示」については、館内で検討機会を設定するまで至っておらず、今年度は特に進捗はなかった。 ・展示ケース・設備等の瑕疵に関わる点検を実施し、それらの修繕を業者等に依頼し実施した。また、開館後の展示ケース・設備等の故障を指定管理者とともに点検し、修繕を依頼するなど総合展示のメンテナンスに努めた。	・計画どおりにクロスアップ展示の展示替えを実施できた。 ・計画どおり、日本語版及び英語版のガイドブック（詳細版）の作成を進めることができた。 ・外国人や子どもに対する展示空間の整備を進めることができたが、障がい者に対する取組は来年度以降の課題であり、全体的な検討が必要である。 ・総合展示の瑕疵および開館後の故障等について定期的に点検を行い、修繕に努めることができた。	・総合展示の定期的な入替えを実施する。 ・障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。 ・総合展示のメンテナンスに努める。 ・総合展示の防犯体制の見直しを進める。 ・子供の興味を喚起する展示手法を導入する。
		【判断数値】			
		・クロスアップ展示の件数 ・総合展示室の展示品の入替件数			・クロスアップ展示の件数 ・総合展示室の展示品の入替件数

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成27年度
総合展示室利用者数	72,400人
うち外国人利用者数	3,800人

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の計画値は、次のとおりとする。

総合展示室利用者数	人
うち外国人利用者数	人

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度				
年度計画	No.	目標（値）	達成状況		自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）		
			年度計画実績							
			総合展示室利用者	142,554					人	
			うち外国人利用者	2,770					人	
			目標（値）実績							
			クローズアップ展示の件数	14					件	
			総合展示室の展示品の入替件数	全体					34	点
				第1テーマ					15	点
				第2テーマ					16	点
				第3テーマ					0	点
				第4テーマ					3	点
第5テーマ	0	点								

中期目標・計画番号	2-2	目標値番号	4	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目					
2 展示					
(2) 企画展示の開催					
		プライオリティ			
		H27	H28	H29	H30
		◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

中期目標・計画		ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。	
イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。			
ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。			
特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。			
設定内容		目標値（5年間）	
特別展示室利用者数		288000人	

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
・民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。 ・研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 ・次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。	4	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	・北海道新聞社、北海道歴史文化財団および国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館と連携し、特別展「東郷列伝」を開催し、大規模かつ魅力的な企画展示を開催した。また、外部連携展示としてアルバート川政府と北海道の連携による「石川直樹写真展」を開催した。 ・これまでの研究成果を反映した展示として、第2回企画テーマ展「鶴」、第3回企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」、第4回企画テーマ展「神様おねがい!」を開催した。 ・収蔵資料を積極的に公開する展示として、第1回企画テーマ展「学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ」を開催した。 ・道民参加型の展示として、北海道化石会と連携したアンモナイト化石の展示（展示ケース3台使用）を、休館ラウンジを利用して試験的に実施した。なおこの取り組みは、道民の自主的な研究活動や研究発表の場としても位置付けている。 ・展示ワーキングチームで次年度以降の企画展示の計画を策定した。また、特別展プロジェクトチームを組織し、来年度の特別展開催に向けた事前調査などの準備を進めた。	・特別展「東郷列伝」については、民間企業との連携により展示資料の充実、広報の強化などを果たし、51,046名の入場者を得るなど当初計画以上の成果をあげ、魅力的な展示を提供することができた。 ・4回の企画テーマ展の開催を通じて、研究結果を広く普及し、収蔵資料を積極的に公開していくことができた。また、北海道化石会と連携した道民参加型展示を試験開催することができた。 ・展示ワーキングチーム会議を6回開催し検討を重ね、来年度以降の企画展示計画を策定することができた。	A	・民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。 ・研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 ・次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。	目標（値）（案） ・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	
		【判断数値】 ・企画展の利用者数と満足度 ・その他、館内外で実施した展示件数					【判断数値】 ・企画展の利用者数と満足度 ・その他、館内外で実施した展示件数	
特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。			特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。					
設定内容		平成27年度	特別展示室の利用者数				人	
特別展示室利用者数		57,600人						

中期目標・計画番号		2-2		目標値番号		4		担当		学芸部博物館基盤グループ	
H27年度				項目別評価（H27年度の実施状況）				H28年度			
年度計画		No.	目標（値）		達成状況		自己評価	評価基準	年度計画（案）		目標（値）（案）
					年度計画実績 特別展示室利用者数		100,487	人			
				目標（値）実績 開館記念特別展 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—							
				利用者数		51,046	人				
				満足度		81.2	%				
				第1回企画テーマ展 学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ							
				利用者数		23,889	人				
				満足度		—	%				
				第2回企画テーマ展 鶴							
				利用者数		15,091	人				
				満足度		96.1	%				
				第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力							
				利用者数		6,071	人				
				満足度		97.3	%				
				北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業 Across Borders：石川直樹写真展							
				利用者数		4,390	人				
				満足度		88.9	%				
				その他、館内外で実施した展示件数		2	件				

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	5	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目					
3 調査研究					
(1) 調査研究の推進					
中期目標・計画		プライオリティ			
H27		H28	H29	H30	H31
◎		◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	15	13	2

中期目標・計画

ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会を提供につなげる。

イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。

ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。

エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域、類似点のある地域、博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。

オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準
・北海道の自然・歴史・文化について、新たな基礎的及び学際的な調査研究プロジェクトを立ち上げ、調査を実施する。 ・道民が調査協力員などの形で調査研究に参加できる体制を構築し、その運営を軌道に乗せる。 ・道民の自主的な研究活動や研究発表の場の整備について検討を進める。 ・サハリン州郷土博物館との5年間の共同研究事業についての覚書に調印し、交流を深めるとともに共同研究を推進する。 ・ロイヤル・アルバート博物館との友好関係を深め、共同研究事業についての覚書に調印する。 ・外部講師の招へいも含めた館内研修会の開催などにより、職員の研究資質の向上を図る。	5	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施 【判断数値】 ・プロジェクトごとの研究課題数	・地域情報集積プロジェクト5課題、「自然・歴史・文化」総合研究プロジェクトの調査を実施している。 ・地域情報集積プロジェクトのうち二つについては、各地域の住民の参加や場外公開研究会を開催したほか、各プロジェクトの調査実施過程で地域住民の協力を求め、参加を得ている。しかし、調査協力員などの形で調査研究に参加できる体制構築は進んでいない。 ・道民の自主的な研究活動の発表の場でもあると共に、道民参加型展示でもあるという位置付けで、体験ワークショップを利用した展示（北海道化石会と連携して開催しているアンモナイト化石の展示）を試験的に実施している。 ・サハリン州郷土博物館と5年間の共同研究実施のための覚書を調印した（2月）。並行して、館内での研究チーム立ち上げに向けた作業を進めた。 ・ロイヤル・アルバート博物館とは、アルバータ州と北海道との交流開始から25年を機会として、石川直樹写真展を開催し、館内にある同博物館との交流を紹介するケース展示の内容を更新した。また、共同研究事業についての覚書を調印した（3月）。 ・館内での研究報告会を定例化して開催した（月1回の間隔で、計6回開催）。外部講師の招へいも検討したが、今年度内には実施に至らなかった。	・各研究プロジェクトを立ち上げ、サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバート博物館と覚書に調印することにより共同研究の端緒を得ることができた。だが、博物館発足初年であることもあって、研究の進捗度合いはプロジェクトごとの差が大きくなり、今後の課題を残している。 ・調査研究への道民参加、道民の研究活動の推進や成果発表の場の確保については、実現できなかった。 ・館内での研究報告会は年度後半から定例化を実現できた。	A
		目標（値）	目標（値）	目標（値）	目標（値）
		5 課題	5 課題	5 課題	5 課題
		4 課題	4 課題	4 課題	4 課題
		2 課題	2 課題	2 課題	2 課題
		6 課題	6 課題	6 課題	6 課題

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	6	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目【再掲】					
3 調査研究					
(1) 調査研究の推進					
		プライオリティ			
	H27	H28	H29	H30	H31
	◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	15	13	2

指摘

中期目標・計画【再掲】
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会を提供につなげる。
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域、類似点のある他域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）
【再掲】 ・北海道の自然・歴史・文化について、新たな基礎的及び学際的な調査研究プロジェクトを立ち上げ、調査を実施する。 ・道民が調査協力員などの形で調査研究に参加できる体制を構築し、その運営を軌道に乗せる。 ・道民の自主的な研究活動や研究発表の場の整備について検討を進める。 ・サハリン州郷土博物館との5年間の共同研究事業についての報告に随伴し、交流を深めるとともに共同研究を推進する。 ・ロイヤル・アルバータ博物館との友好関係を深め、共同研究事業についての報告に随伴する。 ・外部講師の招へいも含めた館内研修会の開催などにより、職員の研究資質の向上を図る。	6	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得 【判断数値】 ・科学研究費補助金件数及びその他の外部研究費の件数	・科学研究費補助金については、前年度からの継続9件に加え、新規5件（うち2件は新規採用者に対するスタート支援）、計14件を獲得し、研究を実施している。来年度以降については新規10件の申請をおこなった。 ・科学研究費補助金以外の外部資金については、情報を多少収集し、研究職員への周知を図っているが、獲得実績がない。	・科学研究費補助金について継続的に獲得することができている ・それ以外の外部資金の獲得に向けた具体的な努力が課題である。	A	・科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、充実した研究成果が得られるよう努めるとともに、新規課題の申請を積極的に行う。 ・それ以外の外部資金について、引き続き情報収集をおこない、当館の研究活動と合致するものを精査して申請等の手続きを行う。
		目標（値）実績	科学研究費補助金件数	14	件	【判断数値】 ・科学研究費補助金件数及びその他の外部研究費の件数
		上記以外の補助金件数	0	件		

中期目標・計画番号	4	目標値番号	7	担当	総務部企画グループ
第1期中期目標・計画項目					
4 北海道開拓の村の整備					
中期目標・計画					
ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。					
イ 建造物内の展示の充実に取り組む。					
プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
	○	○	○	○	
点検項目集計					
計					○
3					2
					×
					1

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準
・老朽化が進んでいる歴史的建造物の補修工事を実施する。 ・旧北海中学校など、建造物内の展示の充実に取り組む。	7	・旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定	・旧広瀬写真館補修工事（第1期）を実施した。 ①2階部分の梁・屋根・ハゼ腐め直し及び塗装 ②トップライト屋根軒先取替補修及び塗装 ③2階部分の外壁下見板取替補修及び塗装 ④2階部分軒天換気口取り付け改修 ⑤2階部分破面板取替補修及び塗装 ⑥2階部分の外壁漆喰塗り部分補修 ⑦看板補修（2カ所） ⑧仮設工事一式 ・H28年度における北海道開拓の村施設整備計画（長期保全計画）を策定した。 ・館内に「百年記念施設のあり方検討会議特別作業班」を設置して、北海道環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課が進める「百年記念施設のあり方検討会議」と連携をとりながら、北海道開拓の村を含む百年記念施設のあり方について具体的な検討を進めている。	・北海道開拓の村施設整備計画に基づいて旧広瀬写真館の補修工事を実施しているが、予算的な制約があり未整備の建造物がある。 したがって、H28年度において、新たな北海道開拓の村施設整備に関する計画を策定し、計画的に予算化し、建造物の整備を実施する必要がある。 また、建造物の内部展示改修については、今年度検討できなかった。これらを含め、「百年記念施設のあり方検討会議」で、北海道開拓の村の建造物、建造物内部展示等の整備について検討する。	B
		目標（値）		年度計画（案）	目標（値）（案）
		・旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定		・H28年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって建造物の補修工事等を実施。 ・H29年度北海道開拓の村施設整備計画を策定。 ・北海道開拓の村建造物の内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定。 ・開道150年に向けて、「百年記念施設のあり方検討会議」を通して北海道開拓の村のあり方について、具体的な検討を進める。	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施 ・建造物の内部展示の改修計画の策定 ・百年記念施設のあり方検討
		【判断数値】	—		【判断数値】
					—

中期目標・計画番号	5-1	目標値番号	8	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	---	----	---------------

第1期中期目標・計画項目
5 教育普及事業
(1) 魅力あるイベントの充実

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

中期目標・計画

ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できているイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。

イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。

ウ 学校団体をはじめとした各種団体による利用を促進するために、グループを対象としたレクチャーや「はっけん広場」での「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。

エ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。

オ イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
イベント参加者数	16,000人

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度						
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）					
・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室を楽しく観覧することができるよう、総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。	8	・子ども向けの魅力あるイベントの充実 【判断数値】 ・ハンズオンの実施件数 ・総合展示場内におけるイベント件数（子ども／全体） ・グループレクチャー（中学生以下／全体）	・総合展示室内での展示解説については、毎日14時から1時間程度で実施する「ハイライツツアー」や中央バスツアーの来館者に対する展示解説は、計画的・定期的に実施できた。一方、「ハンズオン」に関わる事業は1件にとどまった。また、総合展示室内では、来館者から随時求められる個個に対しての対応は常時行なわれてきたが、展示を総合的に解説してほしいという来館者からの随時の要望に対しては、対応することができなかった。 ・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事については、ちやれんがワークショップ、文化の日特別イベント、ちやれんが子どもクラブを計画的・定期的に実施できた。ただし、子ども向けのちやれんが子どもクラブについては3回の開催にとどまった。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会については、企画展示に隣連した講座・講演会、ちやれんが講座はもちろん、ちやれんがリレー講座を計画的・定期的に実施できた。 ・「グループレクチャー」については、予約制で実施し、おおむね各種団体の要望に応じて、テーマを定めて実施することができた。「はっけんプログラム」についても、予約制で実施し、おおむね各種団体の要望に応じて実施することができた。 ・「ミュージアムフェスティバル」は文化の日に設定し、講演会、アイヌ音楽ライブ、特別体験イベントなど、諸行事を実施できた。ただし、博物館活動の理解の深化にそうした諸行事を結びつけるための取組については、十分ではなかった。	・おおむねH27年度の目標は達成することができた。 ・イベント参加者数の数値目標についても、大幅に上回ることができた。 ・ただし、利用者の満足度把握、各種事業終了後における運営・企画等の見直しは、必ずしも厳密には行なえていない。 ・博物館の利用方法についての講座、バックヤードツアーなど、利用を支援する事業については、本格的な講座やイベントの形としては行えなかった。	A	・「ハイライツツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示室を楽しく観覧することができるよう、総合展示室内で展示解説を実施する。 ・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。 ・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会を実施する。 ・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。 ・「ミュージアムフェスティバル」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。 ・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等の見直しを行ない、事業の改善・充実につなげる。					
	イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。										
	<table><tr><td>設定内容</td><td colspan="2">平成27年度</td></tr><tr><td>イベント参加者数</td><td>3,200人</td><td></td></tr></table>						設定内容	平成27年度		イベント参加者数	3,200人
設定内容	平成27年度										
イベント参加者数	3,200人										

年度計画実績		7,135人
イベント参加者数		

目標（値）実績	
ハンズオンの実施件数	1件
総合展示場内におけるイベント件数（子ども／全体）	— / 2,172人
グループレクチャー（中学生以下／全体）	3,613 / 8,892人

イベント参加者数	人
----------	---

中期目標・計画番号	5-2	目標値番号	9	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	---	----	---------------

第1期中期目標・計画項目				
5 教育普及事業				
(2) 教材の充実				

中期目標・計画				
情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわるる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。				

H27年度				
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価
・「クイズシート」や「ちゃれんじラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取組を進める。	9	・子ども向けの教材の開発	・子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取組を進める。 ・多言語に対応した解説サービスについては、スマートフォンによる6か国語（日本語、英語、簡体中文、繁体中文、韓国語、ロシア語）の展示解説サービスを、3月までに開発・構築し、4月以降運用を開始すべく、現在作業を進めている。 ・日本語版（一部多言語）のガイドブックを3月までに刊行すべく、現在作業を進めている。	・多言語解説サービスと、並びにガイドブックの作成については、おおむねH27年度の目標を達成する見込みである。 ・ただし、子ども向けの教材の開発は不十分である。 ・スマートフォンを活用した多言語解説サービスについては達成予定であるが、音声解説までは開発・導入できる見込みはたっていない。 ・定期的または必要に応じて教材を開発・検討する機会を設けることが、かならずしもできなかった。 ・教材のための予算要求を行なっているが、予算措置はなされていない。
		目標（値）	目標（値）	
		・開発したクイズシートの件数	・開発したクイズシートの件数	
		・クイズシート以外に開発した教材数	・クイズシート以外に開発した教材数	

H28年度				
年度計画（案）	評価基準	目標（値）（案）		
・「クイズシート」や「ちゃれんじラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取組を進める。 ・来館者が総合展示の内容について理解を深めることができるように、多言語に対応した解説サービスを導入・運用する。また、その充実についての取組を進める。	A	・子ども向けの教材の開発 ・開発したクイズシートの件数 ・クイズシート以外に開発した教材数		

目標（値）実績				
開発したクイズシート		1 件		
クイズシート以外に開発した教材		0 件		
内訳				

中期目標・計画番号	5-3	目標値番号	10	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
5 教育普及事業	H27	H28	H29	H30	H31
(3) はっけん広場の運営	◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画					
ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者とスタッフの交流の輪を育む。					
イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんプログラムの改良や開発、「はっけんイベント」の充実」に努める。					
ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。					

H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	6	1	5

H27年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度	
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準
・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。 ・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、歴史・歴史・文化を楽しむ等々で、楽しく学んでくれるよう、「はっけんプログラム」を実施する。 ・子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・歴史・文化を楽しむ等々で、楽しく学んでくれるよう、「はっけんプログラム」を実施する。 ・北海道の自然・歴史・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。 ・学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施する。	10	・はっけんプログラムの運用 ・はっけん広場における学校団体などの団体利用者数 ・はっけんプログラムの貸出し件数	・はっけん広場の運営については、自然、考古、アイヌ文化、生活文化などを中心に約40種類の「はっけんキット」を製作・常備し、来館者の自発的な発見を促すための空間として運営している。 ・「はっけんプログラム」については、「①クママツこわい? ヒグマについてもっと知ろう!」「②アンモナイトで発見!」「③やぐらみよ!」「④縄文文化のくらし!」「⑤くまをよめる!」の5つのメニューを整備のうえ、予約制で実施し、おおむね各種団体の要望に応じて実施することができた。 ・体験型の「はっけんイベント」については、9月～3月にかけて、毎週土曜日、日曜日、祝日開館日に実施している。メニューは、9月～11月が「羊毛むくむくポールをつくろう!」、12月が「しめ縄づくり」、1月～3月が「雪の結晶のしおりをつくろう!」であった。 ・新たな「はっけんキット」の開発は、若干量行なった。より効果的な「はっけんプログラムの充実」については、現在年度にむけての改善・充実化の作業に入っている。 ・館外への「はっけんキット」の貸出しについては、1件にとどまっている。この原因としては、貸出し用の「はっけんキット」が整備されていないことがあげられる。	・はっけん広場の運営については、おおむね軌道に乗せることはできた。 ・はっけん広場利用者数の数値目標についても大幅に上回ることができた。 ・ただし、はっけん広場をより魅力的な空間にする、利用者の自発的な発見を促す、はっけんキット」の活用利便性を高めるなど、課題は残っている。 ・また、直接利用者と接する職員への専門知識の向上のための研修は実施しているが、接遇技術の研修は行っていない。 ・利用者からの苦情や要望を吸収・周知はできているが、対応手順についてはかならずしも定めていない。 ・学校関係者や利用者のニーズの把握が不十分である。 ・「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組みが不十分である。	A
		・はっけん広場における学校団体などの団体利用者数 ・はっけんプログラムの実施件数 ・はっけんキットの貸出し件数	133 件 242 件 1 件	・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。 ・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、歴史・歴史・文化を楽しむ等々で、楽しく学んでくれるよう、「はっけんプログラム」を実施する。 ・子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・歴史・文化を楽しむ等々で、楽しく学んでくれるよう、「はっけんプログラム」を実施する。 ・北海道の自然・歴史・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。 ・学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施する。	・利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化 ・はっけん広場における学校団体などの団体利用者数 ・はっけんプログラムの実施件数 ・はっけんキットの貸出し件数

中期目標・計画番号	6	目標値番号	11	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	---	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

中期目標・計画
ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用促進のための取組を進める。

点検項目集計	計	○	×
	4	3	1

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	11	・ミュージアムエデュケーターに関する取組	・博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図るための館内外での研修会への参加については、館内に於いて全日本博物館学会博物館教育研究会1件（2月20日、主催：同学会、共催：北海道博物館・北海道博物館協会）を開催し、3名が参加した。館外の研修会への派遣・参加は実現できなかった。 ・教員などを対象とした研修会や意見交換会については、本年度は検討のみに留まり実施はしなかった。	・教育普及活動に必要な専門的知識及び技能の向上を図る研修会などへの参加、教員などを対象とした研修会や意見交換会については、十分に達成できているとは言えない。本年度は開館に伴う新たな体制づくりとそれを軌道に乗せることを優先しただため、次年度以降への課題とする。 年度計画の達成状況は十分ではないため、B評価とする。	B	・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組	
		【判断数値】						
		・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会の実施件数						
		・教員を対象とした意見交換会と研修会の件数						
			目標（値）実績					
			博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会の実施件数			1件		
			教員を対象とした意見交換会と研修会の件数			0件		

中期目標・計画番号	8-1	目標値番号	12	担当	総務部総括グループ
第1期中期目標・計画項目					
8 施設及び周辺環境の整備					
(1) 館内施設の整備と活用					
中期目標・計画					
ア 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。					
イ 記念ホール、講堂、グラントホールなどの一層の活用を図る。					

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
○					

点検項目集計	計	○	×
	8	7	1

H27年度			項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度	
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画 (案)
・休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備の充実に向けた取組を進める。 ・オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 ・記念ホール、講堂、グラントホールなどの一層の活用に向けた取組を進める。	12	・アメニティ設備の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・設備の活用 【判断数値】 ・設置した設備数とその内訳 ・販売したオリジナルグッズ数 ・設備の活用件数	・ロビーに来館者用のカフェを新設 ・オリジナルグッズの開発、販売 総合展示 5品 特別展示 (美鶴列像) 6品 ・設備の活用 【記念ホールの活用 (地団体利用、イベント等)】 ・北海道の博物館まつり (主催：北のミュージアム活性化実行委員会、開催日：H27.7.11) ・ 地方版クールジャパン推進会議 (主催：内閣官庁、開催日：H27.8.29) ・ アイス音楽ライブ (主催：北海道博物館、開催日：H27.11.3) ・ 北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念 石川直樹氏写真展オープンングセレモニー (主催：北海道、カナダアルバータ州政府在日事務所、開催日：H27.11.27)	・グラントホールに指定管理者運営のミュージアムカフェを新設し、アメニティ設備の充実を図ったところ。キッズ・コーナー等、未設置の設備もあり、アメニティ設備の一層の充実に向け、検討が必要。 ・オリジナルグッズについて、実行委員会の一員として主催した特別展 (美鶴列像) を含め、指定管理者により、計11品を開発、販売した。来館者に喜ばれるよう、新たなグッズの開発、販売について、指定管理者と協議を進める。 ・設備の活用について、館主催の式典や会議以外の用途での一定の利活用を図ることができた。ただし、現在の利用基準は、北海道財務規則による入場券規定に留まっておき、館の広報や真実等の個々の事業に柔軟かつ公平、迅速に対応できるように、「博物館施設活用基準 (版称)」の検討・策定を行う。	B	・アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。 ・オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 ・記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準 (版称)」等の検討・策定を行う。 【判断数値】 ・設置した設備数とその内訳 ・新たに開発、販売したオリジナルグッズ数 ・基準の策定と設備の活用件数

中期目標・計画番号	8-2	目標値番号	13	担当	総務部総括グループ
第1期中期目標・計画項目					
8 施設及び周辺環境の整備					
(2) 周辺環境の整備					
中期目標・計画					
ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。					
イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。					
ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。					

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				
点検項目集計		計	○	×
		4	3	1

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
・公共交通機関でのアクセス向上に向けた取組を進める。 ・トータルデザインに基づいた野幌森林公園内のサインの統一化を図る。 ・野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた検討を進める。	13	・バス停の移設	・来館者の利便性の向上を図るため、バス事業者に強く要請した結果、北海道博物館のバス停を博物館前広場付近に移設。 ・北海道博物館開館にあわせ、トータルデザインに基づいた公園案内図を館内に2基設置した。 ・屋上スカイビューの安全な利用を図るため、避難階段の改良（手摺の嵩上げ）工事をH28.3に実施した。	・館を防れるための唯一の公共交通機関であるバスの停留所を博物館前広場付近に移設し、利用者のアクセス向上に努めた。一方、最寄り駅のバス停において訪日外国人旅行者向けの対策が一部図られていないことが課題として見受けられることから、バス事業者等と協議のうえ、交通案内の多言語化を図りたい。 ・博物館の開館に併せ、トータルデザインに基づいた公園案内図を館内に2基設置した。野幌森林公園内の各案内図については、広大であり、かつ、土地所有者が国、道、市等に分かれることから、サインの仕様等の検討を行ったのち、統一化に向け、他の土地所有者と協議を行いたい。 ・屋上スカイビューの安全な利用を図るため、避難階段の改良（手摺の嵩上げ）工事を実施した。現在、塔屋の外壁剥落の恐れがあることから、屋上開放を見合わせているところであり、再開に向け、改修工事を平成28年度に実施したい。	・最寄りのJR駅における交通案内（バス停案内）の多言語化を図る。 ・サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）に協力を依頼する。 ・屋上スカイビューの安全な利用を図るため、屋上エレベーター塔屋の外壁改修工事を実施する。	・交通案内の多言語化 ・サインの仕様等の検討、土地所有者への協力依頼 ・屋上開放の再開
		【判断数値】			【判断数値】	【判断数値】
		—			・交通案内の多言語化 ・サインの仕様等の検討、土地所有者への協力依頼 ・屋上開放の再開	

中期目標・計画番号	8-3	目標値番号	14	担当	総務部総括グループ
第1期中期目標・計画項目					
8 施設及び周辺環境の整備					
(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進					
中期目標・計画 北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。					

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				

点検項目集計	計	○	×
	2	2	0

H27年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度	
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準
・ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。	14	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	【連絡会議の実施】 ・野幌森林公園管理運営協議会の開催等 《構成機関》 北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に取組んだ。 《会議開催日》 H27.4.15 《内容》 ・H27年度事業計画の決定 ・各構成機関のH26年度事業実績 ・H27年度事業計画の報告 《実施事業》 ・クレーンクレーン野幌（野幌森林公園の一斉清掃）の実施（春：H27.5.26、秋：H27.11.6） ・指定管理者との意見交換を実施（H28.3.10）。 【一体的広報等の実施】 ・北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の各ホームページにリンクを設定。 ・かるちゃんnet（文化施設連絡協議会）（構成：北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館など野幌森林公園近隣の全10の文化施設）において、スタンプラリー（道立教育研究所を除く9施設が参加）を実施（開催日：H27.7.18～8.23）。 ・チャレンがワークショップにおける北海道博物館と自然ふれあい交流館との連携事業の実施（計6回（実施日：H27.6.13、7.4、8.1、9.26、10.24、H28.2.27））。 ・北海道博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行し、各施設間の交通アクセスの向上に努めた。（運行日：H27.5.2～6、H27.9.20～23）	・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数	A
		【判断数値】 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数		・ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。 【判断数値】 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数	

中期目標・計画番号	9-1	目標値番号	15	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目					
9 広報					
(1) 広報活動の強化					

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	○	○	○	○	○

点検項目集計		計	○	×
		7	4	3

中期目標・計画 ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。 イ 愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。 ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。	
設定内容	平成31年度 395,000件
ホームページのアクセス数（トップページ）	

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
・あらゆる媒体を活用した広報活動を展開する。 ・愛称「森のちやれんが」とロゴマークの道民への浸透を図り、積極的に広報媒体やサインなどに活用する。	15	・広報活動の強化 【判断数値】 ・広報媒体ごとの件数 ・ロゴマークの活用媒体ごとの件数 ・ホームページの更新回数 ・ホームページの月別アクセス数	・あらゆる媒体を活用した広報活動の展開については、H27年度はオープン前から現在にかけて、多くの媒体から照会があり、その都度情報提供を行ってきた。その結果、多くの媒体で北海道博物館が紹介されてきた。	・おおむねH27年度の目標は達成することができた。	A	・あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開する。 ・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、その浸透度を把握する。 ・H27年度に開発した北海道博物館プロモーションビデオを積極的に活用し、利用の促進に結びつける。 ・外部からの照会に対する広報活動を継続しつつ、さらに積極的にあらゆる媒体に対しての働きかけを強化する。	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践 【判断数値】 ・広報媒体ごとの件数 ・ロゴマークの活用媒体ごとの件数 ・ホームページの更新回数 ・ホームページの月別アクセス数	
			・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用しているが、道民への浸透は把握できていない。	・ホームページのアクセス数（トップページ）の数値目標についても、大幅に上回ることができた。				
			・北海道博物館の利用の促進をうながすためのプロモーションビデオを3月までに制作すべく、現在作業を進めている。	・ただし、百年記念施設地区における一体的な広報については、必ずしも充実しているとは言えない。				
				・経済団体（商工会、商工会議所など）や観光団体（観光協会、ホテル協会、旅行業者など）と、連携・タイアップした広報活動は、かならずしも充実しているとは言えない。				
				・館内で愛称やロゴマークを積極的に活用するための規程等は策定していない。				
				・H27年度はオープンの年であったが、中期目標・計画の達成のため、H28年度以降は、より積極的な広報活動の強化が必須である。				
			年度計画実績 ホームページのアクセス数	248,316件				
			目標（値）実績 広報媒体の件数	新聞 67件 雑誌 84件 テレビ 43件 ラジオ 19件 ロゴマークの活用件数 新聞 10件 雑誌 1件 外部機関のチラシ 0件 ホームページの更新回数 58回 ホームページの月別アクセス数 4～6月 248,316件 7～9月 84,767件 10～12月 76,254件 1月 73,111件 14,184件				
			ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。			ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。		
設定内容			ホームページのアクセス数（トップページ）			ホームページのアクセス数（トップページ）		
平成27年度			79,000件					

中期目標・計画番号		10		目標値番号		17		担当		総務部企画グループ	
-----------	--	----	--	-------	--	----	--	----	--	-----------	--

第1期中期目標・計画項目											
10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握											

中期目標・計画											
ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。											
イ オートディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。											
ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。											
利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。											
設定内容		平成31年度									
利用者満足度		70%									

H27年度											
年度計画		No.		目標（値）		達成状況			項目別評価（H27年度の実施状況）		
・自己点検評価の実施に向け、評価方法などの検討を進める。		17		・利用者調査を含む評価制度の方向性の打ち出し		・北海道立総合博物館協議会を設け、8月4日に第1回協議会を開催した。この中で、北海道博物館基本運営方針、北海道博物館中期目標・計画（H27～31年度）、H27年度計画を示した。また、「北海道博物館の評価方法のあり方について」を諮問した。諮問を受けて、評価のあり方を検討する評価作業部会を設置し、作業部会を4回開催し（10月14日、12月1日、1月27日、3月22日）、各申案の検討を行った。H28年3月23日に開催予定の第2回協議会において、協議会からの答申を予定している。			・北海道立総合博物館協議会を設け、外部からの意見や助言、交換、協力、評価などを得る機会を設けた。さらに、内部評価の実施に向け計画的に取組を進めることができた。		
・利用者からの意見・評価を幅広く集め館運営の改善に活かすため、アンケート調査などによるオートディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施する。						・自己点検評価としての内部評価の実施に向けた、実施要領等の策定、実施方法などについて検討を進め、内部評価委員会を設置し、3月初めに内部評価の実施を予定している。			・総合展示、特別展、企画テーマ展などの利用者の満足度調査を実施し、平均で90%の高い評価を得た。		
・博物館協議会による外部評価の実施に向けた取組を進める。				【判断数値】 —		・博物館利用者の満足度調査については、平均で90%と高い評価を得た。 ①総合展示満足度：86.6%（H27年4月18日～5月31日実施アンケートより、回答数312件中、満足277件）。 ②企画テーマ展「鶴」満足度：96.1%（H27年6月27日～8月16日実施アンケートより、回答数267件中、満足257件）。 ③特別展「奥酋列像」満足度：81.2%（H27年9月5日～11月8日実施アンケートより、回答数1512件中、満足1439件）。 ④企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」満足度：97.3%（H27年11月28日～H28年1月17日実施アンケートより、回答数110件中、満足107件）。 ⑤写真展「石川直樹」展満足度：88.9%（H27年11月28日～H28年1月17日実施アンケートより、回答数72件中、満足64件）。 年度計画実績			90 %		

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。											
設定内容		平成27年度									
利用者満足度		70%									

ブライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎
点検項目集計		計	○	×
		5	2	3

中期目標・計画番号	11	目標値番号	19	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	----	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
11 博物館ネットワーク	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 各種博物館団体との連携					
(2) 博物館交流の促進	○	○	○	○	○

中期目標・計画	点検項目集計				計	○	○	×
(1) 各種博物館団体との連携					9	5	4	

ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。

イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

エ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。

ウ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。
ウ 地域の博物館や学校などのニーズに応じ、一般、学生、教員などを対象にした出前講座を実施する。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	5年間
道内市町村等との連携・協力件数	200件

H27年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度	
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準
(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援する。 (2) 博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向け検討を進める。 ・道内の教育委員会や学校と連携した出前博物館を実施する。	19	・連携及び交流の方針・計画案の作成 【判断数値】 ・図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数 ・出前博物館の実施件数	(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。 ・全国歴史民俗系博物館協議会については、北海道ブロック幹事館としての業務を行い、幹事館会や年次集會への参加などの形で北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。 ・北海道博物館協会については事務局としての業務を行い、北海道博物館大会 (7月10～11日)、ミュージアムマネージメント研修会 (7月11日)、役員会 (3回) などを開催し、また、道内地域ブロック別や館種別組織の活動の支援を行うなど、北海道の中核的博物館としての役割を果たした。 (2) 博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館ほか、外部組織・機関との交流・連携・協力については、以下のとおり行った。 ①北海道博物館協会とともに北のミュージアム活性化委員会と連携し、道内6ブロックの博物館についての情報を発信する「北海道の博物館まつり」(7月11日)の開催。 ②同じく同委員会との連携により、道内の博物館を広く周知し、利用を促進するための「北海道の博物館周遊マップ」の作成。 ③「事務別列」展実行委員会への参画と、国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館との連携による同展および関連イベントの企画・制作・実施。	(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会ほか全道規模の博物館団体との連携に関しては、北海道支部幹事館または北海道ブロック幹事館として会館・集會等に参加し、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。 ・北海道博物館協会に関しては、大会および研修会の開催ほか、事務局業務を通じて北海道の中核的博物館としての役割を果たすことができた。 (2) 博物館交流の促進 ・外部組織・機関との交流・連携・協力について、は、さまざまな形態の交流を合計すると38件であり、目標におおむね達した。	A
		目標 (値) (案)	年度計画 (案)	目標 (値) (案)	
		・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針の策定	(1) 各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 (2) 博物館交流の促進 ・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針や基準を策定し、連携形態の決定から実施に至る流れを明確化する。 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。 ・連携・協力に努める。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。	・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針の策定 ・図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数	

中期目標・計画番号	11	目標値番号	19	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	----	-------	----	----	-------------

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況			自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
			④近隣の文化施設とのネットワークである「かるちゃんnet」事務局の運営とイベントの実施、「QISEネットワーク」や「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」など他機関が主催するネットワークへの参画とイベントの実施。 ⑤三笠シオバパーク推進協議会への参画。 ⑥「カルチャータナイト」「サイエンスパーク」「ジオ・フェスティバルin Sapporo」「こそだてフェスティバル」など、他の組織・機関が主催するイベントへの参加・出展。 ⑦日本種生中学生会、「大津波プロジェクトによるワークショップ」、全日本博物館学会博物館教育研究会など、他の組織が主催するイベントの共催・協力等。 ⑧札幌平岸高校デザインアートコースとの連携によるデジタル絵本作成と読み聞かせイベントの実施。 これらさまざまな形態の交流・連携・協力を実施し、地域との協働・交流を促進することができた。 ・道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会については、「大津波プロジェクトによるワークショップ」、全日本博物館学会博物館教育研究会などを実施したほか、道立北方民族博物館解読館解説員研修や紋別市立博物館友の会の見学研修への協力を果たしたが、自主企画の研修会等については具体的な検討の進展には至っていない。 ・上記の外部組織・機関との交流・連携・協力事業の中で、出前博物館と呼べる事業を実施できたが、道内の教育委員会や学校との連携によるものについては実施していない。 ※年度計画の目標値である「道内市町村等との連携・協力件数」と目標の判断数値である「図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数」は多くが重複し明確に区別できないため、数値としてはいずれも同じ（総数の38件）としておく。			・「かるちゃんnet」の運営や、他機関が主催するネットワークへの参画、イベントへのなどにより、他の博物館等との交流・連携を深めることができた。 ・道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会については、共催・協力という形では実施したが、自主的な企画については後期の進展には至らなかった。 ・道内の教育委員会や学校と連携した出前博物館については、実施しなかったが、今後地域や学校等のニーズの把握を進めていく必要がある。 以上から、さらに充実化させる必要がある項目もあるが、総体としては年度計画をおおむね達成したためA評価とする。		
道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。			年度計画実績			道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。		
設定内容			平成27年度			道内市町村等との連携・協力件数		
道内市町村等との連携・協力件数			40件			道内市町村等との連携・協力件数		
						件		

中級目標・計画番号	12-2~3
目標値番号	20
担当	学生部社会貢献グループ

第1期中期目標・計画項目		プライオリティ					
12	情報発信		H27	H28	H29	H30	H31
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化						
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援		○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	15	7	8

中期目標・計画			
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化			
ア 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークを構築する。			
イ ICTなどを活用した多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。			
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援			
ア 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。			
イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。			
ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。			
来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。			
設定内容	5年間		
写真の提供件数	350件		
レファレンス件数	4000件		
設定内容	アンケート、その他の利用件数	5年間	
		500件	

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した公開・共有化の推進については、資料データベースおよびウェブサイトを刷新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システム更新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システムの統合を実施したが、効果的なネットワークの構築に向けた取組という点では特に変化はなかった。	20	・図書室の活用のための中長期プランの作成 ・図書室の利用率の向上 ・図書室の収蔵資料の整理	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・収蔵資料、図書、刊行物の推進については、資料データベースおよびウェブサイトを刷新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システム更新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システムの統合を実施したが、効果的なネットワークの構築に向けた取組という点では特に変化はなかった。	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の図書・刊行物に関するデータの整備を進め、インターネット上で公開に向けた取り組みを進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、各担当グループなど担当者が館内の多様な情報を発信できるようにする。	年度計画（案） ・ソーシャルメディアの一層の活用 ・レファレンスの流れの一元化
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関する図書、博物館の活用を進め、図書の充実を図る。 ・開館・観覧・複写などの各種サービスを提供する取組を進める。 ・道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援を行う。		・図書室の利用率の向上 ・図書室の収蔵資料の整理	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・収蔵資料、図書、刊行物の推進については、資料データベースおよびウェブサイトを刷新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システム更新、旧開拓記念館・旧道庁支庁民権文化センター等システムの統合を実施したが、効果的なネットワークの構築に向けた取組という点では特に変化はなかった。	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の図書・刊行物に関するデータの整備を進め、インターネット上で公開に向けた取り組みを進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、各担当グループなど担当者が館内の多様な情報を発信できるようにする。	年度計画（案） ・ソーシャルメディアの活用 ・レファレンスの流れの一元化

中期目標・計画番号		12-2～3		目標値番号		20		担当		学芸部社会貢献グループ									
H27年度						項目別評価（H27年度の実施状況）													
年度計画		No.		目標（値）		達成状況													
来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 <table><tr><td>設定内容</td><td>平成27年度</td></tr><tr><td>写真の提供件数</td><td>70件</td></tr><tr><td>レファレンス件数</td><td>800件</td></tr><tr><td>アンケート、その他の利用件数</td><td>100件</td></tr></table>		設定内容	平成27年度	写真の提供件数	70件	レファレンス件数	800件	アンケート、その他の利用件数	100件					・特にアイヌ民族文化研究センター資料に関しては、統合により有料エリア内にある図書室で閲覧する体制となったため、利用からはサービスの低下を心配する声も出ていたが、図書室の利用者に限っては観覧料を払わずに入室できる仕組みを作った。 ・一方で、リニューアル工事に伴う旧情報サービス室の廃止と図書室の新設および書庫等の改修に伴い、図書の受入・登録から貸出までの図書室の基本的な機能を休止せざるを得なかった。特に職員向けの貸出システムは稼働できない状態が長期間続き、貸出の再開は年度末になってしまった。 ・閲覧などの一般利用者向けの各種サービスについては、図書室の新設により閲覧機能は充実した。複写サービスについては指定管理者による対応など考え得る選択肢を検討し、実装に向けた取組を進めたが、採算性などの理由により実装できずにいる。 ・レファレンスについては、日常的に電話・電子メール・来館時の口頭などさまざまな窓口で受け、対応している。それぞれの窓口での受付時から担当学芸員への連絡、回答に至る流れの一元化や内容の共有化が年度当初からの課題であったが、本年度は実現できなかった。このため、来館しないレファレンスの件数は図書室対応分（64件）しか記録しておらず、全館分は把握できていない。					
		設定内容	平成27年度																
		写真の提供件数	70件																
		レファレンス件数	800件																
アンケート、その他の利用件数	100件																		
年度計画実績 <table><tr><td>写真の提供件数</td><td>132件</td></tr><tr><td>レファレンス件数</td><td>—件</td></tr><tr><td>アンケート、その他の利用件数</td><td>12件</td></tr></table>						写真の提供件数	132件	レファレンス件数	—件	アンケート、その他の利用件数	12件								
写真の提供件数	132件																		
レファレンス件数	—件																		
アンケート、その他の利用件数	12件																		
目標（値）実績 <table><tr><td>図書室の利用者数</td><td>8,317件</td></tr><tr><td>図書室のレファレンス件数</td><td>216件</td></tr></table>						図書室の利用者数	8,317件	図書室のレファレンス件数	216件										
図書室の利用者数	8,317件																		
図書室のレファレンス件数	216件																		
来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 <table><tr><td>写真の提供件数</td><td>件</td></tr><tr><td>レファレンス件数</td><td>件</td></tr><tr><td>アンケート、その他の利用件数</td><td>件</td></tr></table>						写真の提供件数	件	レファレンス件数	件	アンケート、その他の利用件数	件								
写真の提供件数	件																		
レファレンス件数	件																		
アンケート、その他の利用件数	件																		

中期目標・計画番号	13-1～3	目標値番号	21	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目					
13 人材育成機能の強化					
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
(2) 外来研究員の受入					
(3) 派遣研修					

中期目標・計画					
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
(2) 外来研究員の受入					
(3) 派遣研修					

中期目標・計画 (1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。 イ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。 (2) 外来研究員の受入 外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。 (3) 派遣研修 外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積する。					
---	--	--	--	--	--

H27年度				項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	21	・研修・実習プログラム の開発	(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 10日間）の日程で実施した。定員20名のところ最終的に10名 （北海道大学、札幌大学、札幌市立大学ほか）の受講があった。 プログラムを一から直し、この数年、旧開拓記念館では実施 していたが、旧開拓記念館を移転したため、博物館の活動の固ま り全体にわたって体験できるカリキュラムとすることができた。	(1) 博物館実習生やイン ターンシップなどの受入 れ ・博物館実習（館務実 習）については、開発し たプログラムで行うこと ができ、博物館学芸員の 後継者および博物館のヘ ビーユーザー育成に貢献 できた。受講人数は定員 の半分だったが、大学の 状況や学芸員コース受講 学生の数に左右されるた め必ずしも少ないとはい えない。とはいえ休館中 に博物館実習の受入れを 休止していたことの影響 もあると考えられ、今後 知名度が上げられれば増 える可能性もある。	A	(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入 れ ・博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施す る。 ・博物館実習（見学実習）やインターンシップを 積極的に受け入れる。 ・大学などと連携し、より効果的な実習プログラ ムの構築に向けた取組を進める。 ・教員を目指す学生が博物館の活用方法について 学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修 の講師として当館の職員を積極的に派遣する。	・博物館学芸員の後継者お よび博物館のヘビーユー ザー育成 ・博物館学系領域の充実化
(2) 外来研究員の受入		・外部研究者や大学院生などを受け入れるための体 制構築に向けた取組を進める。	・インターンシップについては、5件（小樽市立朝里中学校、北 海道立高校ほか、計23人・日）を受け入れ、博物館の活動およ び学芸員の仕事のうち、普及イベントの準備などを体験して もらった。 ・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出 するため、大学などの授業や研修の講師として当館職員を派遣す ることについては、本年度は行わなかった。	(2) 外来研究員の受入れ ・外部研究者や大学院生などの外来研究員等とし ての受入れに関する規定の整備など体制構築を 進める。		(2) 外来研究員の受入れ ・外部研究者や大学院生などの外来研究員等とし ての受入れに関する規定の整備など体制構築を 進める。	・インターンシップの受入 れ件数と人数 ・博物館学系研修会や技術 研修会への参加件数
(3) 派遣研修		・外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修 会に当館職員を参加させる。	(3) 派遣研修 ・外部機関が開催する博物館学系の研修会や技術研修会等につい ては、「大津波プロジェクト」によるワークショップ（主催：同 館）、「国宝・重要文化財防災・防犯対策研修会」（主催：文化 庁）など、6件の研修等に延べ10名が参加した。	(3) 派遣研修 ・外部機関が開催する博物館学系の研修会や技術研修会等につ いては、リニューアルによる改修で外来研究室 を新設し、受入れに関する規定の整備など体制構築に向けた後 討を進めたが、実施には至らなかった。		(3) 派遣研修 ・外部機関が開催する博物館学系（特に展示や 普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させ る。	・博物館実習（館務、見 学）の受入れ件数と人数 ・インターンシップの受入 れ件数と人数 ・博物館学系研修会や技術 研修会への参加件数

中期目標・計画番号		13-1～3		目標値番号		21		担当		学芸部社会貢献グループ			
H27年度						項目別評価（H27年度の実施状況）						H28年度	
年度計画		No.	目標（値）		達成状況			自己評価		評価基準		年度計画（案）	目標（値）（案）
					目標（値）実績 博物館実習の受入れ			内訳		総数		9 件	
								館務実習				121 人	
										見学実習		1 件	
												10 人	
												8 件	
												111 人	
												5 件	
												23 人	
												6 件	

中期目標・計画番号	14-1～4
目標値番号	22
担当	学芸部社会貢献グループ

プライオリティ				
	H27	H28	H29	H30
(1)~(4)				

第1期中期目標・計画項目
14 研究成果の発信と社会貢献
(1) 学術刊行物などの刊行 (2) 学会への発信 (3) 職員の対外貢献 (4) 外部機関との事業連携

十	〇	×	2
十	〇	〇	1

中期目標・計画		設定内容		5年間
新刊・報道対応の件数	学芸発表の件数	招待講演の件数	各種委員・共同研究員等委嘱の件数 その他の件数	計900件
		学術誌等への寄稿の件数		

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

(1) 学術刊行物などの刊行

研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

(2) 学芸成果の発信

アイ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ 企画展示の開催に合わせ、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

(3) 職員への対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門知識の提供など、外部機関の活動に対し積極的に協力し、社会貢献に努める。

(4) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度	
No.	年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準
22	（1）学術刊行物などの刊行 『北海道博物館研究紀要（仮）』及び『アイヌ民族文化研究センター研究紀要（仮）』を刊行する。 - 大規模な企画展示の開催に合わせて展示図録を刊行する。 - 小規模な企画展示の開催に合わせて解説冊子を刊行する。 - 学会への発表 - 北海道博物館の研究成果を各種学会で発表し、学術雑誌へ投稿する。 - 職員への対外貢献 - 講演、各種委員への就任、共同研究への参加、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。 - 市民企業などを招いた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。	・職員への対外貢献の促進 ・新聞・報道等への対外件数 ・講演等の件数 ・各種委員等への就任件数	（1）学術刊行物などの刊行 - 旧開拓記念館と旧アイヌ民族文化研究センターの統合に伴い、2機関がそれぞれ定めていた研究紀要にかかわる編集、刊行方針、投稿要領、執筆要領等の規定線を新たに策定し、編集委員会を組織するなど、編集・刊行のための体制を整備した。 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』については、旧道立アイヌ民族文化センターで実施していた外部査読制度を引き継いだ。『北海道博物館研究紀要』については本年度は組織内の査読のみ行った。 - 著作権に関する取り決めを整備するなど、研究紀要のウェブサイトでの公開に向けた準備を進めた。ウェブサイトでの公開自体は、年度末を目途に実施する。 - 研究紀要の策定・体裁を刷新し、研究者ほか専門家だけでなく、まずより広く研究成果を発信するため、一般道民でも即時を指すくらい手に取って読みたくなるような表紙のカラー化および読みやすくなりやすいレイアウトを導入した。 『北海道博物館研究紀要』には12本、『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』には6本の投稿があり、それぞれ第1号を刊行した。 - 研究紀要については、有償頒布の方法を検討し、実現に向けた取り組みを進めたが、本年度は実現に至らなかった。 - 特別展「夷酋肖像」の図録を編集・刊行した。 - 小規模な企画展示に伴う解説冊子については、旧開拓記念館の「豆本」に代わり、より魅力的なA4版カラーの解説パンフレットを導入した。企画テーマ展「鶴」「北海道アンモナイトとその魅力」「神様おねがい！」の3件について解説パンフレットを編集・刊行した。	（1）学術刊行物などの刊行 『北海道博物館研究紀要』及び『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。 - 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。 - 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』のウェブサイトでの公開を進めるとともに、過去の『開拓記念館研究紀要』『道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』についても適宜として著作権についての処理を行い、公開可能になったものから順次公開を進める。 - 研究紀要の有償頒布の実現に向けた取組を進める。 - 学会への発表 - 学会・研究会等で発表し、学術雑誌へ投稿するなど、研究成果の積極的な公開を行う。 - 職員の対外貢献 - 講演、各種委員への就任、共同研究への参加、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。	S
		【判断数値】 ・新聞・報道等への対外件数 ・講演等の件数 ・各種委員等への就任件数		【判断数値】 ・研究紀要のウェブサイトでの公開件数	

中期目標・計画番号	14-1~4	22	担当	学芸部社会貢献グループ
H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）		
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価
			(2) 学会への発信 ・研究成果の学会・研究会等での発表40件および学術雑誌等（紀要を含む）への執筆53件、計93件の研究成果の公開を行った。 (3) 職員の対外貢献 ・対外貢献としては、以下の実績があった。 新聞・雑誌…その他報道への手写的な内容の寄稿、協力…92件 招待講演等の件数…59件 各種委員・非常勤講師等への就任、共同研究への参画…4・7件 その他専門的知識の提供など（調査への協力・展示監修）…7件 これらさまざまな形態で、外部機関の活動に対して積極的に協力した。 (4) 外部機関との事業連携 ・特別展「東西列伝」を、北海道新聞社・北海道歴史文化財団とともに実行委員会を組織して開催したほか、「かるちゃんnet」の事業にイオン北海道の協力を得るなど、民間企業等との共同による事業を行った。 ・「こそだてフェスティバル」（12月12日、主催：札幌コンベンションセンター）に依頼されて出展。また、厚真シンポジウム（主催：同シンポジウム実行委員会）を後援するなど、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行った。	特別展図録、企画テーマ展の解説パンフレットは、利用者にとっての魅力アップにつながったと考えられる。 (2) 学会への発信 ・学会等での発表および学術雑誌等への執筆を通じて研究成果の公開を積極的に行ったが、多くは個人単位のものであり、研究グループとして、博物館全体としての研究成果の発信に結びつけてい必要がある。 (2) 学会への発信および(3)職員の対外貢献・社会貢献の件数は、学会への発信および各種対外貢献を合わせて298件であり、目標を大きく上回っている。 (4) 外部機関との事業連携 ・民間企業などを含めた外部機関との事業連携・協力・後援とも、積極的に推進した。
H28年度		年度計画（案）	目標（値）（案）	(4) 外部機関との事業連携 ・民間企業などを含めた外部機関との事業への協力を、後援を積極的に行う。
社会貢献の目標値は、次のとおりとする。		社会貢献の目標値は、次のとおりとする。		
設定内容	平成27年度	新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等への就任の件数 その他の件数		
計180件		新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等への就任の件数 その他の件数		

中期目標・計画番号

目標値番号

24

総務部総括グループ

担当

外部評価項目

ガバナンス態勢の育成

1. 館内の意思決定機関の育成

備考

H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対して、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計

計

9

○

4

×

5

プライオリティ

H27

H28

H29

H30

H31

H27年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度	
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準
	24	・課題の共有と解決	【運営会議改革】 ・館内の意思決定の迅速化や情報共有体制の強化を図るため、処務細則を改正し、運営会議の開催回数をこれまでの月1回から週1回に変更した。 《設置根拠》 北海道博物館処務細則第23条 《構成委員》 館長、副館長、アイヌ民族文化担当副館長、総務部長、学芸部長、研究部長、アイヌ民族文化研究センター長、各学芸主幹 《開催実績》 H27年度 (2月末) 30回 (参考: H24年度 12回) 【懸案事項の集約】 ・各グループの懸案事項を館全体の共通認識とするとともに、その解決を図るため、全館的な懸案事項の現状 (経過、取組状況)、課題、対応方向等を集約。 《懸案事項エントリ一件数》 全58件 《集約状況、今後の予定》 《集約状況》 ・業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。また、業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。また、業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。	・運営会議の開催回数を増やすことで、館内の意思決定の迅速化や情報共有体制の強化を図られ、アイヌ民族文化研究センターとの協働やリニューアルプランによる業務編成に柔軟な対応ができた。 ・運営会議の席上、他グループとの事前協議等をしないまま提出される案件が増加していることから、スムーズな運営とから、スムーズな運営の進行を図るため、必要に応じて、会議開催前にヒアリングを行う。 ・業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。また、業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。また、業務内容や量から、十分な対応ができていない事業もあり、これらの事業を集約整理し、優先順位付けやこまめな進捗管理等を行うことで、事業の進捗を促すこと。	B
		【判断数値】			

中期目標・計画番号		25	担当	環境生活部文化スポーツ課
外部評価項目 カバナンス態勢の育成 3. 道庁の支援体制の育成				
備考 H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。				

H27年度		項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）
	25	・課題の共有と解決	・北海道博物館赤れんがサテライトに関する事項 4月にリニューアルオープンした北海道博物館への語り客や展示等の情報を発信するため「北海道の歴史ギャラリー」から「北海道博物館赤れんがサテライト」へ名称を変更するとともに展示替えを行い、また、道内博物館の中核的な役割を担っていることから、道内博物館等を紹介するコーナーを設置し情報の発信に努めている。	・「北海道博物館赤れんがサテライト」については、円滑に名称変更や展示替えが図られたほか、より活用が図られるよう、博物館に改進黨の提案等を行っている。	A	・博物館の課題について、情報の共有化をはかり、適切な連携のもと、解決を図る。
			・博物館の総合展示に係る事項 テーマ別の展示内容について、よりわかりやすく、おもしろい展示となるよう、来館者からの意見等を踏まえ、内容が検討され展示替えが行われた。	・博物館の総合展示について、円滑に展示替えが図られた。		
		【判断数値】	一	【判断数値】		

研究センター事業推進 方針番号	1-1	研究センター目標値 番号	1	担当	アイヌ民族文化研究センター
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】				
1 展示事業				
1) 総合展示の運営				

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（略約）				
アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく、親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。				
1) 総合展示の運営				
総合展示の入替えなどを継続的に実施し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。				
① クローズアップ展示の運営 ② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ③ 展示資料の入替え				

点検項目集計	計	7	0	4	×	3
--------	---	---	---	---	---	---

北海道博物館中期目標・計画番号	2-1
-----------------	-----

北海道博物館中期目標・計画項目	
2 展示	
(1) 総合展示室の運営	

北海道博物館中期目標・計画	
最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るだに揃う、飽きない展示を演出するとともに、年毎、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。 イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。 ウ 総合展示のメンテナンスに努める。	

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）		
1	・総合展示の定期的な入替え	【総合展示の入替え】 ①「クローズアップ展示」の運営 ・クローズアップ展示の更新は年度内に予定した2回を実施できた。ただし、準備が遅延する等の課題を残している。 ②「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ・「アイヌ文化Q&A」についても、定期的に回答等を追加・更新することとしているが、こちらも準備段階であり実現に至っていない。 ③展示資料の入替え ・展示資料の入替えについては、予め定期的な入替えを行う資料と入替え頻度を定め、それに基づき実施するようにした。この結果、一定回数の入替えを実施できているが、予定した頻度・回数には至っていない。 ・展示資料入替えのうち、伝統的な衣服の展示については、資料を入れ替えることもPadによる過去の展示資料及び今後の展示予定資料を画像で紹介することを年度当初段階で計画していたが、現時点では未着手となっている。 【館全体の年度計画に対する達成状況】 ・ガイドブック作成については、総合展示全体での計画・作業の中心で取り組んでいる。 ・利用しやすい展示空間整備については、特にこのことを主眼とした検討を行ってきたわけではないが、「アイヌ文化Q&A」に記入された内容等を通して来館者の状況把握には努めている。 ・総合展示全体のメンテナンスに含ませて取り組んでいるほか、ハンプアップ展示の機銃（トンコリ、アイヌ唐プロック、衣服の布地等）については劣化・損傷等の状況に注意を払うとともに、補修等に対応できるよう物品の確保等を図っている。	【総合展示の入替え】 ・クローズアップ展示等の一部については一定程度の達成をみたが、全体として、計画とおりに実施できたとは言えないところが多く、計画策定及び実施体制を見直す必要がある。 【館全体の年度計画に対する自己評価】 ・おおむね対応できており、今後も状況把握と実施体制について継続的・定期的に自己点検を続ける。	B	【総合展示の入替え】 ①クローズアップ展示の運用 ・第2テーマのクローズアップ展示3、4のほか、他テーマでもアイヌの歴史・文化を主題とするクローズアップ展示を企画・実施し、総合展示の内容を深め、アイヌ文化に関する展示を充実させる。H28年度はその第一着手としてクローズアップ展示1、5での展示を各1回盛り込む。 ・同時に、円滑な準備と実施ができるよう、事前の検討・準備を早める。 ②「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ・別途、更新の計画を定め、その準備・検討を定例化し、定期的な更新を実施する。 ③展示資料の入替え ・入替えの主たる目的により、「より多くの資料を紹介することに重点を置くもの」（衣服及びその関連資料）、「一定の頻度で多くの資料を優先し、資料または展示部分を入れ替えるもの」（ノート等）等の区分を設け、それぞれについての実施体制を定める。 ・衣服に関するPad画像展示をH28年4月までに設置し、以後、衣服の入替えに合わせた内容を更新するよう、上記実施体制に組み込む。 【館全体の年度計画に対する取組】 館全体の年度計画に従って、各取組を行う。	・クローズアップ展示の計画に当たって更新の円滑な実施と今年度の方針を踏まえた次の年度以降の計画策定 ・「アイヌ文化Q&A」の定期的な入替え ・総合展示の定期的な入替え		
		【判断数値】 ・クローズアップ展示の件数 ・「アイヌ文化Q&A」の入れ替え件数 ・総合展示の展示品の入れ替え件数				・クローズアップ展示の件数 年間6件 ・「アイヌ文化Q&A」の入替え件数 年間4回 ・総合展示の展示品の入替え件数 年間6回 被身員等 年間2回 ノート等 年間1回		

目標（値）の実績	
総合展示の展示品の入替え件数	3 件
クローズアップ展示の件数	2 件
「アイヌ文化Q&A」の入替え件数	0 件

研究センター事業推進 方針番号	1-2-3	研究センター目標値 番号	2	担当	アイヌ民族文化研究センター
--------------------	-------	-----------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】				
1 展示事業	2 特別展・企画展	3 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催		

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）				
アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく、親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。				
2）特別展・企画展				
企画テーマ展を開催し、大人から子どもまでさまざまな人々に向けた展示の機会を設ける。				
3）道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催				
道内巡回展の開催し、新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。				

点検項目集計	計	○	×
	3	1	2

北海道博物館中期目標・計画番号	2-2, 3-2
-----------------	----------

北海道博物館中期目標・計画項目	
2 展示	(2) 企画展示の開催
3 調査研究	(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

北海道博物館中期目標・計画	
2 展示	(2) 企画展示の開催
ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。 イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。 ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する	
3 調査研究	(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化
エ 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。	

北海道博物館・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）		H28年度		
北海道博物館年度計画 2 展示 (2) 企画展示の開催 ・民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。 ・研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 ・次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。 3 調査研究 (2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 ・調査研究の成果を活用した企画展示並びに巡回展を開催する。	No.	2	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
	目標（値）			目標（値）の実績			
	・企画展または巡回展の実施			企画展 巡回展			
	【判断数値】			【判断数値】			
			・企画展、巡回展の利用率			・企画展、巡回展の利用率	
			・企画展、巡回展の満足度			・企画展、巡回展の満足度	

研究センター事業推進 方針番号	2	研究センター目標値 番号	3	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2
--------------------	---	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】		北海道博物館中期目標・計画項目	
2 調査研究事業		3 調査研究	
(2) アイヌ文化に関する調査研究の重点化		(2) アイヌ文化に関する調査研究の重点化	

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）		北海道博物館中期目標・計画	
アイヌの民族に関する専門的な機関としての社会的な要請に応じるために、それらの取り組みの土台となる研究プロジェクトを推進していく。		アイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ文化の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。	

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
◎	◎	◎	◎
H31			◎

H27年度		H28年度	
北海道博物館年度計画	No.	目標（値）	目標（値）（案）
3 調査研究 (2) アイヌ文化に関する調査研究の重点化 ・総合博物館としての役割・特長をふまえたアイヌ文化に関する調査研究課題を設定し、実施する。 ・アイヌ文化の継承・振興に資する学際的共同研究課題を策定し、道内外の関係機関や研究者とも連携した効果的な実施計画を定める。	3	・研究プロジェクトの実施 【判断数値】 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数 ・科研等の補助金件数	・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる ・研究内容のいっそうの充実と成果の速やかな達成のため、外部資金の獲得を講ずる。 ・調査研究の充実、成果の提供や情報発信、展示、教育普及等の基礎となるものであり、次年度以降は先ず調査研究の時間的確保や研究センターにおける検討の定例化等に着眼的に取り組む、各職員及び研究センターとしての目標設定を明確化する。 【判断数値】 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数 ・科研等の補助金件数

研究センター事業推進
方針番号

3

研究センター目標値
番号

4

担当

アイヌ民族文化研究センター

研究センター事業推進
方針番号

3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

3 資料・情報の収集・整備事業

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）

ア 道内外の関係機関、研究者との連携を図り、アイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、情報の収集、整理を行う。

イ 道内の中核博物館における専門機関として、先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民具資料についての情報の一元的な集約を進める。

ウ さらに道内市町村に所在する各種の資料に重点を置き、総合的、体系的に調査・収集を進める。

点検項目集計

計	○	×
4	2	2

北海道博物館中期目標・計画ブラオリティ

H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

北海道博物館中期目標・計画項目

3 調査研究

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

北海道博物館中期目標・計画

関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。

項目別評価 (H27年度の実施状況)

達成状況

・資料の収集・整備を目的とした調査（資料の所在調査及び所蔵する資料の整理・公開のための調査）は当年度に4回程度実施している。ただし、全体としては計画的、体系的に実施したとは言えない面があり、研究センターの調査・収集及び整理・公開の計画の検討を踏まえて実施できるようにしていく必要がある。

・今年度新たに収集した資料は、実質的には衣服などの一件のみである。上のような状況を反映し、上記の4件の調査から直接に収集に結びつくものはなかった。

・一方で、デンマークのアイヌ語研究者の音声資料の収集に向けた準備を進める等、アイヌ文化に関する貴重な資料とその情報の一元的な集約に向けた取組を続けている。

【知照数(値)】

・収集・整備のための調査の実施件数（所在調査を含む）
 ・収集した資料の件数

自己評価

ア（アイヌ文化に関する資料の所在調査、情報の収集・整理）、ウ（道内市町村に所在する資料の総合的、体系的に調査・収集）については、一定の取組を行ったが、実施体制も少なく計画性・体系的を欠いた。

イ（先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民具資料について情報の一元的な集約を進める。）については取組がなかった。

ただし、イ及びその他のアイヌ語資料について、収集・整理に向けた予備的な協議に着手している。

【知照数(値)】

・収集・整備のための調査の実施件数（所在調査を含む）
 ・収集した資料の件数

年度計画（案）

・各職員及び研究センターの調査研究計画の中に資料の調査を位置付けるほか、巡回展の開催地でも資料調査を行う等、組織的な調査へのシフトを進める。

・北海道がこれまでに牽引してきたアイヌ文化に関する調査事業の成否や調査データの集約に向け関係機関との協議に着手する。

・デンマークのアイヌ語研究者の資料については当年度内に受入れを行い整理計画を立て保存措置（デジタル化）に着手する。

【知照数(値)】

・収集・整備のための調査の実施件数（所在調査を含む）
 ・収集した資料の件数

評価基準

B

目標（値）

目標（値）

4

目標（値）

2

北海道博物館年度計画

達成状況

・資料の収集・整備を目的とした調査（資料の所在調査及び所蔵する資料の整理・公開のための調査）は当年度に4回程度実施している。ただし、全体としては計画的、体系的に実施したとは言えない面があり、研究センターの調査・収集及び整理・公開の計画の検討を踏まえて実施できるようにしていく必要がある。

・今年度新たに収集した資料は、実質的には衣服などの一件のみである。上のような状況を反映し、上記の4件の調査から直接に収集に結びつくものはなかった。

・一方で、デンマークのアイヌ語研究者の音声資料の収集に向けた準備を進める等、アイヌ文化に関する貴重な資料とその情報の一元的な集約に向けた取組を続けている。

【知照数(値)】

・収集・整備のための調査の実施件数（所在調査を含む）
 ・収集した資料の件数

自己評価

ア（アイヌ文化に関する資料の所在調査、情報の収集・整理）、ウ（道内市町村に所在する資料の総合的、体系的に調査・収集）については、一定の取組を行ったが、実施体制も少なく計画性・体系的を欠いた。

イ（先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民具資料について情報の一元的な集約を進める。）については取組がなかった。

ただし、イ及びその他のアイヌ語資料について、収集・整理に向けた予備的な協議に着手している。

【知照数(値)】

・収集・整備のための調査の実施件数（所在調査を含む）
 ・収集した資料の件数

目標（値）の実績

収集・整備のための調査の実施件数	4	件
収集した資料の件数	1	件

55

研究センター事業推進 方針番号	4-2	研究センター目標値 番号	6	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	12-1
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	-----------------	------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】						
4 資料・情報等の公開・提供事業	北海道博物館中期目標・計画項目 12 情報発信					
2) 情報発信	(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信					
(1) 学術情報の集約	(2) 発信基盤の整備					

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）						
(1) 学術情報の集約	アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。 ア これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究に よっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。					
・これまでの調査・研究事業及び資料・情報の収集・整理事業を通して蓄積されてきた学術情報の集約を図る。						
① アイヌ文化に関する学術情報の収集とデータベース化	② 道内の市町村と連携した情報の集約					
(2) 発信基盤の整備						
・インターネット等を通して提供方法の拡充などより広く情報を提供できる発信基盤の整備に努める。						
① アイヌ文化関係の学術情報の発信	② ホームページの充実					
③ 発信媒体の強化						

点検項目集計	計			
	(1) 学術情報の集約	3	0	×
	(2) 発信基盤の整備	3	2	1

H27年度			
北海道博物館年度計画			
・アイヌ文化に関わる文献情報、アイヌ語及び口承文芸に 関する情報、民具や伝統的生産技術に関する情報、北海道 博物館所蔵の民具並びに道内市町村に所在する民具に関す る情報など、ニーズの高い情報についてデータベース化に 着手する。	No.	6	目標（値） 発信媒体強化に向けた 方向性の打ち出し
・これらの情報については、随時、ホームページなどを活 用して発信する。			【判断数値】 ・ホームページ更新数 ・ホームページアクセ ス数
			目標（値）の実績 ホームページ更新回数 2 回 ホームページのアクセス数 7,000 件

H28年度			
項目別評価（H27年度の実施状況）			
達成状況		自己評価	評価 基準
- 資料及び情報のデータベース化やそのホームページへの掲載等につ いては、前述（目標値番号5の達成状況）のとおり、今年度は データベースの統合や収蔵庫の物理的な片付け、未整理資料の確認、情報 システムの統合等が理学的な課題となり、かつそれぞれの対応に時 間を要したため、ほとんど着手できなかった。 - 今年度は、旧道立アイヌ民族文化研究センターの資料データの移 行、情報システムの統合による時期体制への移行等の、今後の出発 点となる部分を達成することとなった。 - ホームページは、北海道博物館ホームページの一部になったこと に加え、上記のような事情のため、更新は年度当初の事務的な案内 に伴うもののみ実施するに留まった。4月以降2月末までの研究セン ターホームページのアクセス件数は統合前の3年間の平均約 14,000件の半分程度である7,000件である。ページの位置そのも のが動いた（サイトのトップページからサイト内の一部分に）こと が影響したと考えられるといえる、情報提供の充実という観点から は、アクセス件数を先ず従前に近いところまで増やす必要がある。		達成度に対する評価は 低い。統合・移行に伴う 種々の作業や、予想の範 囲を超える問題の発生等 があったことはいえ、本件 は中・長期的に整備すべ き重要な案件であるだけ に、いっそう計画的に段 階を踏むよう、当初から 着眼的に絞り込むべきで あった。	B
		年度計画（案）	目標（値）（案）
		- H28年度は現在の収蔵資料に関するデータ の整備を優先課題とし、H27年度までに登録 した資料のデータ整備を行う。 - 上記の優先課題と平行して、H28年度以降 新たに収集する資料について整理・公開計画を 策定するとともに、順次着手する。 - 目標値番号 4のH28年度の計画（案）でも 触れた道が行ったアイヌ文化に関する調査事業 の成果のデータベース化に着手する。 - 現在の情報システムが5年後に更新されるこ とを見据え、今後のアイヌ文化情報データバー ズのあり方を検討し整備を進める。 - 現在の当館ホームページ上に、アイヌ文化の 学習情報などのコンテンツの拡充を付ける。 - ホームページアクセス数	- 整理・公開計画の策定に 基づきデータベース化を著 手する - ホームページアクセス 10,000以上 【判断数値】 ・ホームページにおけるア イヌ文化コンテンツの追加 数 - ホームページアクセス数

研究センター事業推進 方針番号		4-2	研究センター目標値 番号		7	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号		12-3
--------------------	--	-----	-----------------	--	---	----	---------------	-----------------	--	------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】									
4 資料・情報等の公開・提供事業									
2) 情報発信									
(3) 学習・伝承活動への支援									

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）									
・それらに基づいた学習・伝承活動への支援を行う。									
① 関係機関、団体等に対する支援の強化 ② レファレンス（学習相談等）への対応									

点検項目集計		計	○	×
		3	0	3

H27年度					H28年度				
北海道博物館年度計画					年度計画（案）				
No.					目標（値）（案）				
7					・博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を確実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。 この中期的な目標のもと、H28年度は次の2点を実施する。 ・アイヌ文化に関する照会の窓口としての認知度を上げるため、当館のホームページ等での発信を増やす。 ・館内においてレファレンス対応の記録票の定型化等を図り、客観的な記録の作成と対応の蓄積を進める。				
【判断数値】					【判断数値】				
・図書室におけるレファレンス件数					・図書室におけるレファレンス件数				
・他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）					・他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）				

項目別評価（H27年度の実施状況）										
達成状況					自己評価		評価基準			
・今年度は、統合後の新体制発足直後であったため、レファレンスや支援要請等、対応の手順や要領を模索しながら進めてきたところがあった。また、アイヌ民族文化研究センターの存在とその役割・機能について、アイヌ文化関係者の間では未だ十分には周知されていないとの指摘もいただいている状況でもある。 ・今年度のアイヌ文化伝承者・伝承団体に関する直接の支援は、芸能関係の協会など2件程度にとどまった。伝承支援については、単純に仕掛けを増やすというよりも、研究センターとしての資料整理や情報の蓄積を進め、かつ、それらに関する情報発信を充実させることを通じて、関係者の中で認知度を上げる方向が重要と考えている。 ・レファレンスについては、直接の記録をとっていないため印象の次元での把握になるが、旧道立アイヌ民族文化研究センターの当時と比べ、自治体、マスコミ、事業者からの照会はまだ変わりがなく、一般からの照会も、旧道立アイヌ民族文化研究センターの当時と比べ、相対的に減少している。これは、北海道博物館内の一組織となったことの影響が、前者（自治体等）よりも後者（一般）に対して、アイヌ文化に関する照会窓口が見えにくくなるかたちで及んでいることを推測させる。					・数値にもとづく評価が困難な面はあるが、今後、改善・充実を図る余地が大きいことは確かである。従って自己評価はやや厳しいものとするところが妥当と考える。		B			

目標（値）の実績					図書室におけるレファレンス件数		64件		他機関、団体への学習・伝承支援件数		2件	
----------	--	--	--	--	-----------------	--	-----	--	-------------------	--	----	--

研究センター事業推進 方針番号	5-1	研究センター目標値 番号	8	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	5-1～3												
アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】						北海道博物館中期目標・計画項目 5 教育普及事業 (1) 魅力あるイベントの充実 (2) 教材の充実 (3) はっけん広場の運営													
H27年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)				H28年度													
北海道博物館年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価 基準	年度計画 (案)	目標 (値) (案)												
			・その他の館内イベントとしては、1件のみであるが、11月3日に、子どもを対象として復元された家屋に実際に入ってもらい、そこで家屋の内装や家の中のしきりなどを感じ取る事業を実施し、52名 (大人38名、子ども14名) の参加者が参加の好評であった。次年度からは、子ども向けものを夏休みに実施する等、より効果的に実施していきたい。 目標 (値) の実績 <table><tr><td colspan="2">グループレクチャーの実施件数</td></tr><tr><td>全体</td><td>256 件</td></tr><tr><td>アイヌ関連</td><td>36 件</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">はっけんプログラムの実施件数</td></tr><tr><td>全体</td><td>242 件</td></tr><tr><td>アイヌ関連</td><td>39 件</td></tr></table> 上記以外に行った館内イベント件数 1 件	グループレクチャーの実施件数		全体	256 件	アイヌ関連	36 件	はっけんプログラムの実施件数		全体	242 件	アイヌ関連	39 件				
グループレクチャーの実施件数																			
全体	256 件																		
アイヌ関連	36 件																		
はっけんプログラムの実施件数																			
全体	242 件																		
アイヌ関連	39 件																		

研究センター事業推進 方針番号	5-2	研究センター目標値 番号	9	担当	アイヌ民族文化研究センター
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
5 成果の普及事業
2 研究成果の提供

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（締約）
ア 研究成果をとりまとめた研究紀要等の成果報告書を刊行していく。
① 研究紀要
② 成果報告書
イ 研究成果を踏まえた講演会の開催など、アイヌ文化に関する最新の研究成果や正確な情報をよりわかりやすいかたちで提供する取組を一層強化する。
① 広報紙「ちやれんがニュース」
② ホームページ
③ ソーシャルネットワーク
ウ さまざまな取組を通じて、北海道博物館の内部組織としてのアイヌ民族文化研究センターの取組を周知していく。
① アイヌ文化紹介小冊子
② リーフレットなど

点検項目集計	計	○	×
	3	2	1

北海道博物館中期目標・計画番号	9-1, 12-1, 14-1
-----------------	-----------------

北海道博物館中期目標・計画項目
9 広報
(1) 広報活動の強化
12 情報発信
(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信
14 研究成果の発信と社会貢献
(1) 学術刊行物などの刊行

北海道博物館中期目標・計画
9 広報
(1) 広報活動の強化
ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用することにも、職員全員が積極的な広報活動を展開する。
12 情報発信
(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信
イ これらの収集については、さまざま媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究に与える役割を最大限に果たすことのできるよう、そのための機能の充実を図る。
14 研究成果の発信と社会貢献
(1) 学術刊行物などの刊行
ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。
イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究結果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。
ウ 企画展示の開催に合わせ、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
9 広報 (1)	◎	○	○	○	○
12 情報発信 (1)	◎	◎	◎	◎	◎
14 研究成果の発信と社会貢献 (1)					

H27年度			H28年度					
No.	北海道博物館年度計画	目標（値）	達成状況	項目別評価（H27年度の実施状況）	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
		【判断数値】						
9	14. 研究成果の発信と社会貢献 （1）学術刊行物などの刊行 『北海道博物館研究紀要（仮）』及び『アイヌ民族文化研究センター研究紀要（仮）』を刊行する。 ・大規模な企画展示の開催に合わせて展示図録を刊行する。 ・小規模な企画展示の開催に合わせて解説用冊子を刊行する。	・積極的な発信と協働の推進 【判断数値】 ・「ちやれんがニュース」の記事数 ・講演依頼件数 ・各種委員への就任件数 ・道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等） ・他機関の機関紙等での記事の掲載数 ・新聞・報道対応件数	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を創刊することが決定し、現在第1号の編集中である。 ・上記研究紀要には依頼原稿1、職員によるもの5、計6件の論文を掲載することができ、アイヌ民族文化研究センター全体でも6件の成果を掲載できる見込みであり、初年度の業務幅の中で比較的高い評価と評価できる。 ・ただし、予定した全ての論文が掲載できたわけではなく、日常的な研究業務推進のための配慮とともに、研究紀要の内容をより充実したものにできるように、編集・とりまじめの過程での配慮・注視を強くしていきたい。 ・展示については、今年度、研究センターとしての開催はなく、図録等も発行していない。	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を創刊することが決定し、現在第1号の編集中である。 ・上記研究紀要には依頼原稿1、職員によるもの5、計6件の論文を掲載することができ、アイヌ民族文化研究センター全体でも6件の成果を掲載できる見込みであり、初年度の業務幅の中で比較的高い評価と評価できる。 ・ただし、予定した全ての論文が掲載できたわけではなく、日常的な研究業務推進のための配慮とともに、研究紀要の内容をより充実したものにできるように、編集・とりまじめの過程での配慮・注視を強くしていきたい。 ・展示については、今年度、研究センターとしての開催はなく、図録等も発行していない。	・研究紀要を創刊し、一定数の原稿を掲載できたこと、原稿の内容もそれぞれ、研究課題や事業に沿った、とりまじめな報告となったこと、所期の目標を達成していることと評価できる。 また、調査研究の成果のほか、総合展示におけるアイヌに関する新たな取り組みに関する自己紹介的な報告など、博物館でありアイヌ文化の情報を発信する立場を踏まえた論文を掲載できたことも評価できる。 ・館の広報誌に「研究センターだより」として毎月1ページを確保した。 ・その他、道のメルマガ「カジンへの挑戦」のほか、『博物館研究』誌上に所蔵資料紹介を掲載した。	A	・研究紀要第2号を刊行する。刊行にあたっては、調査研究事業における研究計画とその実施状況に関する検討を行うことを通じて、掲載論文の質を充実させる。 ・H28年度は「蔵出し展」開催予定である。蔵出し展では図録等を作成する予算措置は無いが、展示解説などに資料調査の成果を反映させていく。 ・『アイヌ文化紹介小冊子』に掲載してきた学習のための参考情報を最新のものに改め、定期的に発信・提供するのちにを整備する。 ・「ちやれんがニュース」を通じて、北海道博物館における研究センターの活動を、わかりやすいかたちで一層発信していく。	・研究紀要等を通じて研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる 【判断数値】 ・「ちやれんがニュース」の記事数 ・講演依頼件数 ・各種委員への就任件数 ・道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等） ・他機関の機関紙等での記事の掲載数 ・新聞・報道対応件数

研究センター事業推進 方針番号		研究センター目標値 番号	10	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	
--------------------	--	-----------------	----	----	---------------	-----------------	--

外部評価項目	北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
ガバナンス総勢の育成	H27	H28	H29	H30
2 研究センター内の意思決定機関の育成				H31

備考
H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申にに応じて、研究センター事業推進方針及び中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	○	×
	6	3	3

H27年度			項目別評価（H27年度の実施状況）			H28年度		
北海道博物館年度計画			達成状況			年度計画（案）		
No.			自己評価			評価基準		
10			・北海道博物館初年度の今年度は、研究センターのガバナンスに与ったも試行と探索の一年であった。 すなわち、運営面では北海道博物館としての一体的なガバナンスのもと、研究センターとして必要な検討や決定をどう進めるか、という課題があり、各部署に即しては、それぞれが総務部または学芸部のグループ業務を抱うなかで、どのように研究センターの業務を分掌し進めるかという課題である。 ・運営面については、博物館の運営会議に担当副館長とセンター長が出席することを通して意思決定への参画と調整を図った。 ・業務面では、定期的に週1回程度会合することにより、事業の進め方を検討し情報と認識を共有することを目指した。ただし、博物館事業や他の用務との関係で会合を欠送るケースなど、全体の業務の中に研究センターが埋まらずに孤立しないような配慮が引き続き重要である。 ・その他、関係者からは、研究センターとしての占有スペースが事実上研究室と収蔵庫のみとなったことから、道立アイヌ民族文化研究センター当時と比べ利用者にとっての利便性が変わったとの指摘を受けることもあった。施設設備上の問題はやむを得ない面であり、だからこそ、実際に様々な事業を企画することを通して研究センターのあり方について周知を図り理解を広げることが重要になっている。			・運営会議での議題提案や報告を通してアイヌ民族文化研究センターとしての意思決定を館運営に反映させ、情報の共有を図ることができた。 ・ただし、研究センターとしての内部協議の機会が設定等は十分とは言えなかった。今後は業務の中で効果的に意思疎通と情報共有を図りながら協議・決定を進めていく。		
【判断数値】			【判断数値】			【判断数値】		
—			—			—		
目標（値）			目標（値）			目標（値）（案）		
・館における研究センターの運営			・研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ①調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえるつ、館内で担当副館長、センター長及び非専断研究職員による検討会議を随時開催する。 ②研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回り等による情報共有を確保する。			・研究センター会議（副館長・センター長・非専断職員）の会議／職員全体の会議／主幹・主査の会議）の定例化		



北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM